

158  
118

蝦夷風俗  
どうけ百人  
第七十九冊

027286-000-8

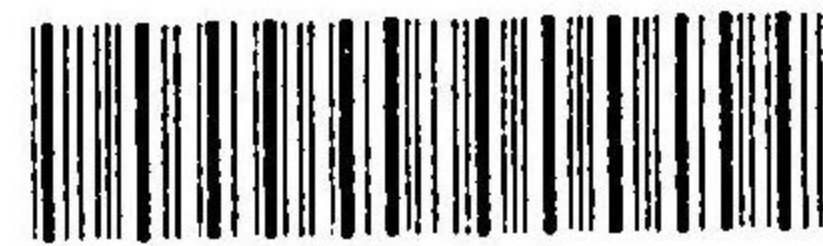
158-118-79

蝦夷風俗 どうけ百人

〔出版者不明〕

M21

ADJ-0014





蝦夷どうけ百人  
風俗

158

118

七十九





自叙

浅井長次郎氏

青とタル隻山変シテ空林寒枝トナリ史業正文流  
 奇詔威作トナル由テ知ル戲作ハ隠然真狸ヲ備  
 具シ空枝ハ己と華葉ヲ含有スルヲ然リト虽モ好  
 テ犯勻我言ヲ作スニアテス物ト正語ヲ備ト以テ  
 へ易カラザセリアリ斯レ之ノ編ノ起ル所以ト  
 不肖頃日北諸志ヲ閱スル人皇三十八代 齊明ノ朝ヨ  
 リレテ移住者逐年蕃殖レ文化年中全嶋ノ版籍ハ十  
 百八十人三万七千七百四十ナリトモ明治十九年及  
 万子七百三十人三十八万九千四百四十多キト至ルモ蓋シ人ノ比





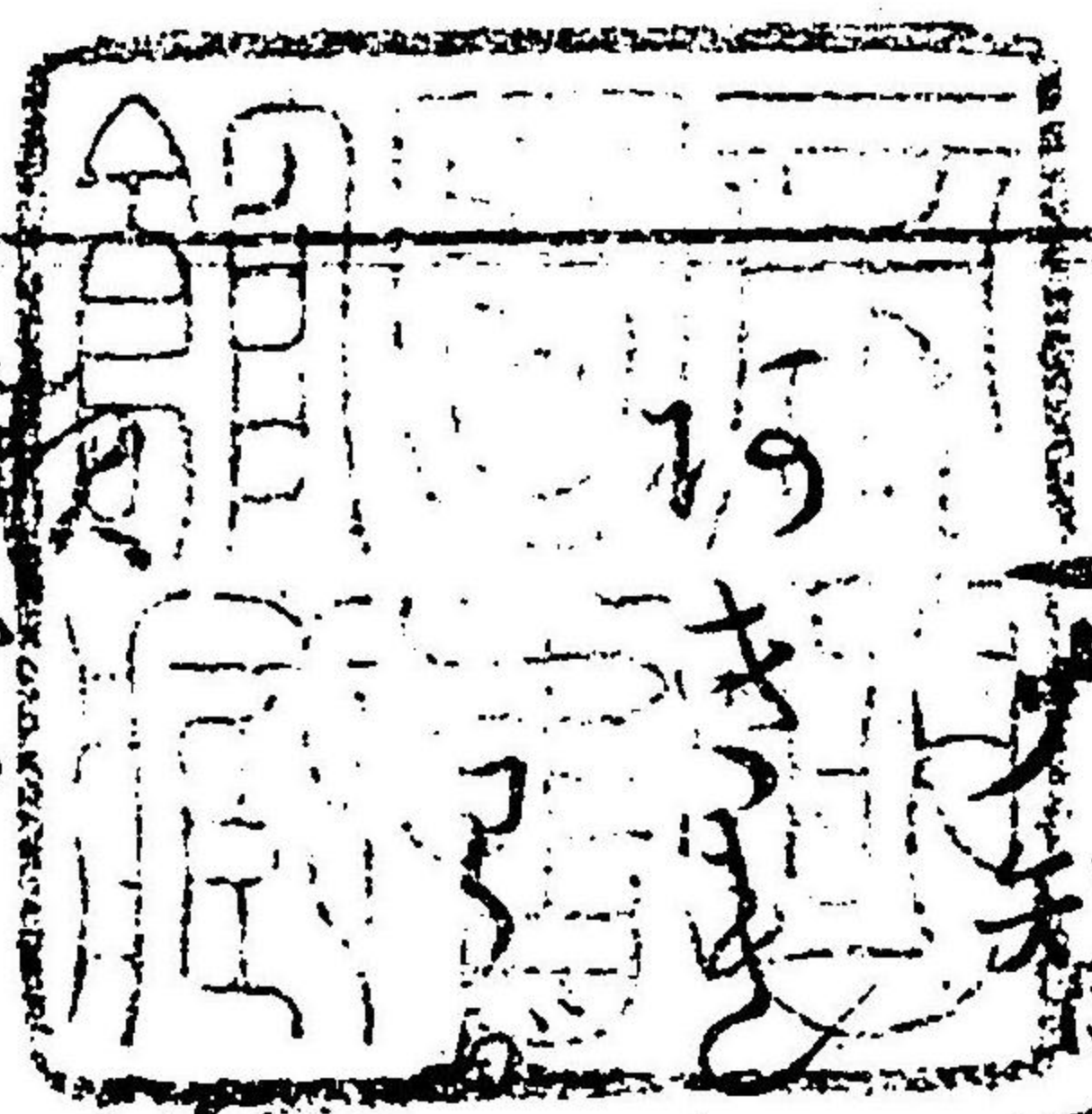
渡航ノ際多クノ事故ナキモノ殆ント稀ナル可レ挿モ上白ニ  
廻リ之レヲ致フルニ 後冷泉ノ朝安部頼時王命ニ抗シ父子  
海ヲ踰ヘニ交其地ニ後リレモ遂ニ望ミテ絶ニテ還ル 鳥羽ノ  
源廷尉兄弟相恨ハスレテ蝦夷ニ入り終ニ彼倭ヲ踏ミ滿  
州ニ渡ルト云フ 後鳥羽ノ朝藤原泰衡源頼朝ト戦  
ニ大敗シ其將士誰ニ逃竄レ海ヲ渡リ蝦夷地ニ入ル後又  
之レヲ渡黨ト云フ 蛸崎茂別相系河孫ホノ諸氏即チ  
是ナリ當時下野ヨリ小山隆政會津ヨリ葦名盛久孰レモ鎌倉ニ  
抗レ國亡ニ相續テ来ル正長元肇安東貞季ノ子教季南部  
守行ニ逐ハレ秋田ヲ退キ嘉吉三年海ヲ跨リ松券ニ至リ島民

撫綏スルニ下國氏トス享徳三年武田信廣父義興ト相得ス  
其臣佐ニ木下孫ホヲ率ニ高松ヲ駕シ松前ニ来ル長子光廣ニ至  
リ蝦夷ノ乱ヲ平ラケ 堀尾氏ノめ塔トナリ福山城ヲ據リ遂ニ金嶋  
ヲ統轄シ十九代ノ孫修廣ニ至リ封土人民ヲ奉還ス近世原氏伊  
達氏片倉氏石川氏稲田氏前後後任スト虽モ是又僅々ノ情ナキ  
ヲ得ヌ見ツベレ古今ノ名族猶ヲ斯ノ如シ況ニヤニハ方斗笏ノ庶民ニ  
於テヲ也或ハ商戦ニ敗レ為レ一家不悵ノもの孰レカヤ事實ニ  
至リテハ所謂正語ヲ以テ謂ヒ易カラサルモノアリ故ニ此ノ編ヲ著ル  
レ名ケテ北函戯作ノ人モト題ス其方言俚語元来見ルニ足  
ラスト最モ其事實ニ於テハ蓋シ後航ノ人ニ必ス百中一的



スルモアラシク若シ江湖ノ君子幸ヒ覽觀ヲ給ハテ譽ニ願フ解  
 クノミナラス乃チ我中ノ志理ヲ含有スルモノニシテ所謂  
 滌消桑中ヲ吟シ以テ男女淫奔ナルヲ察シ國風七月ヲ誦  
 シ以テ黎民ノ多忙暇マナキヲ知ル一友之ノ編ヲ緒トキ世  
 後ニ此成業ノ艱難辛苦實ニ容易ナラザル状態ヲ知ルニ  
 於テハ思ヒ央ハテ遠クルモノアラシク斯レ乃チ之ノ編ノ妙ヲ記ス  
 所以ニシテ聊カ愚考ヲ卷端ニ記シ以テ自序ニ換フルト云  
 昭和二十一年四月於函陽赤坂街此島社

編者誌



天智天日

巧き女  
 心あはれ  
 高き  
 袖  
 女  
 心  
 高  
 女  
 心  
 高





持統天皇

あまのあまの

夏氣

あまのあまの  
場所

衣

雨

持統天皇

あまのあまの

あまのあまの

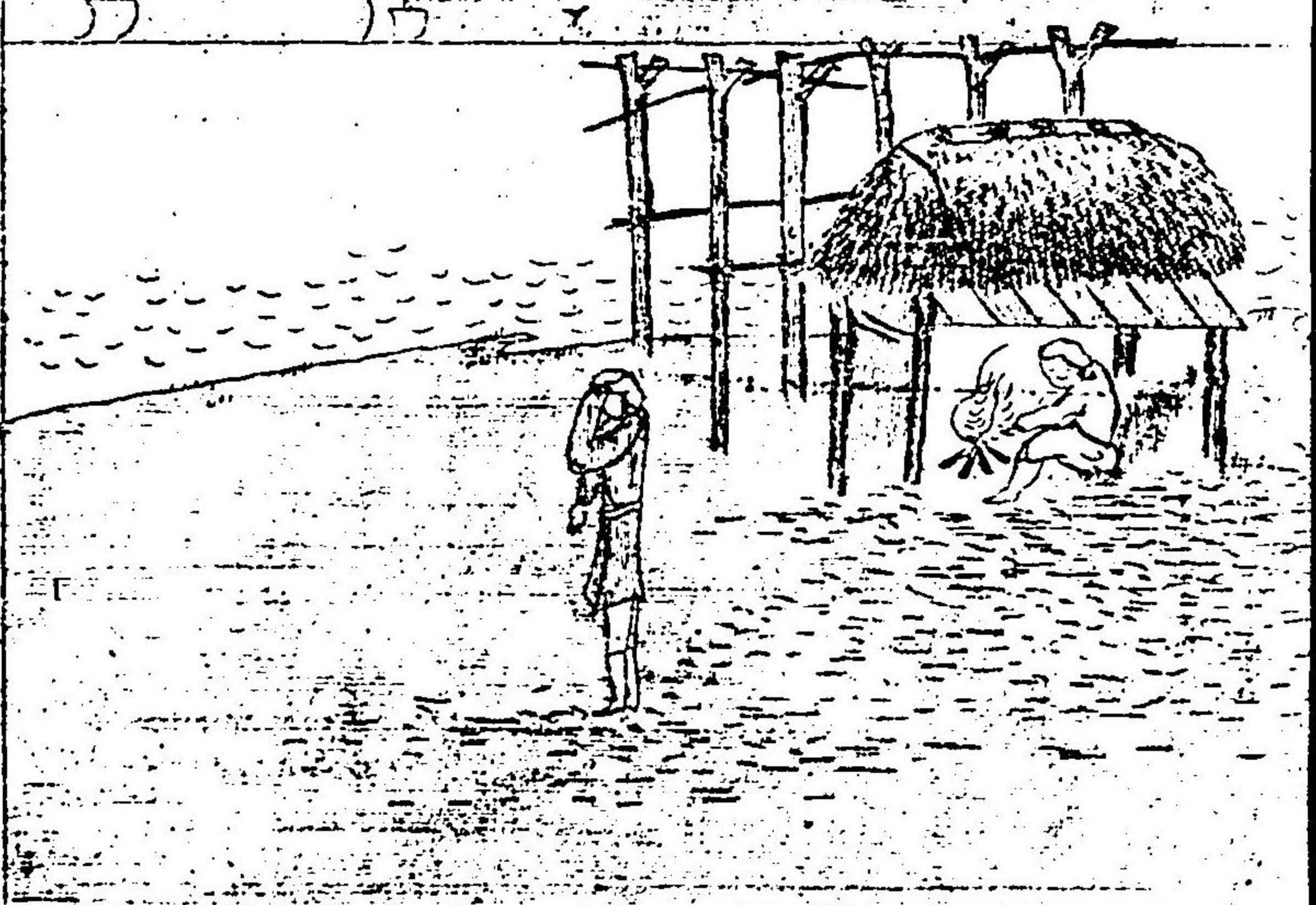
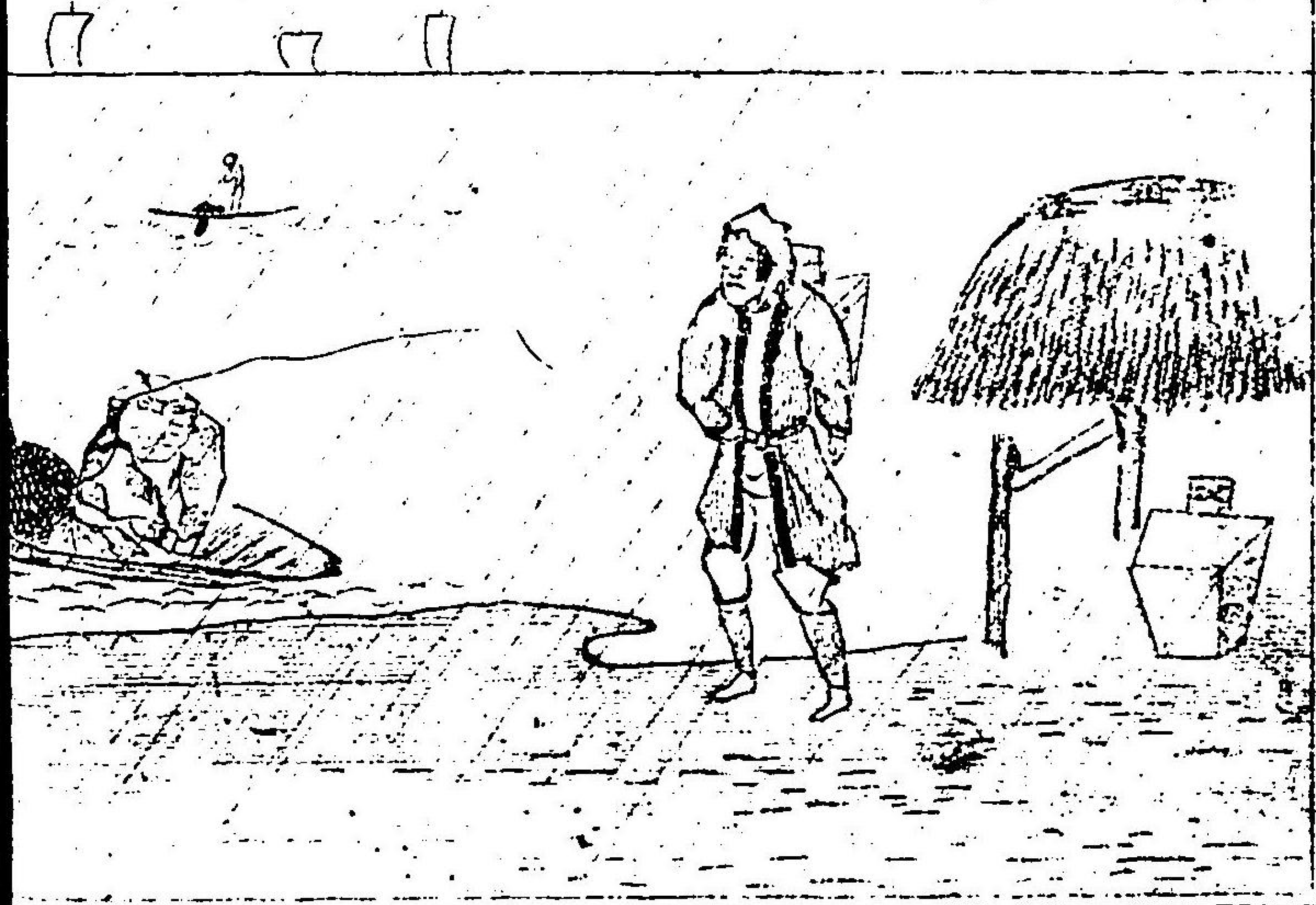
あまのあまの

夜もあまのあまの

あまのあまの

あまのあまの

あまのあまの





山邊家入

後月望

仰

五六

既

に

雪

如

猿丸古史

奥尻島

こゝろ

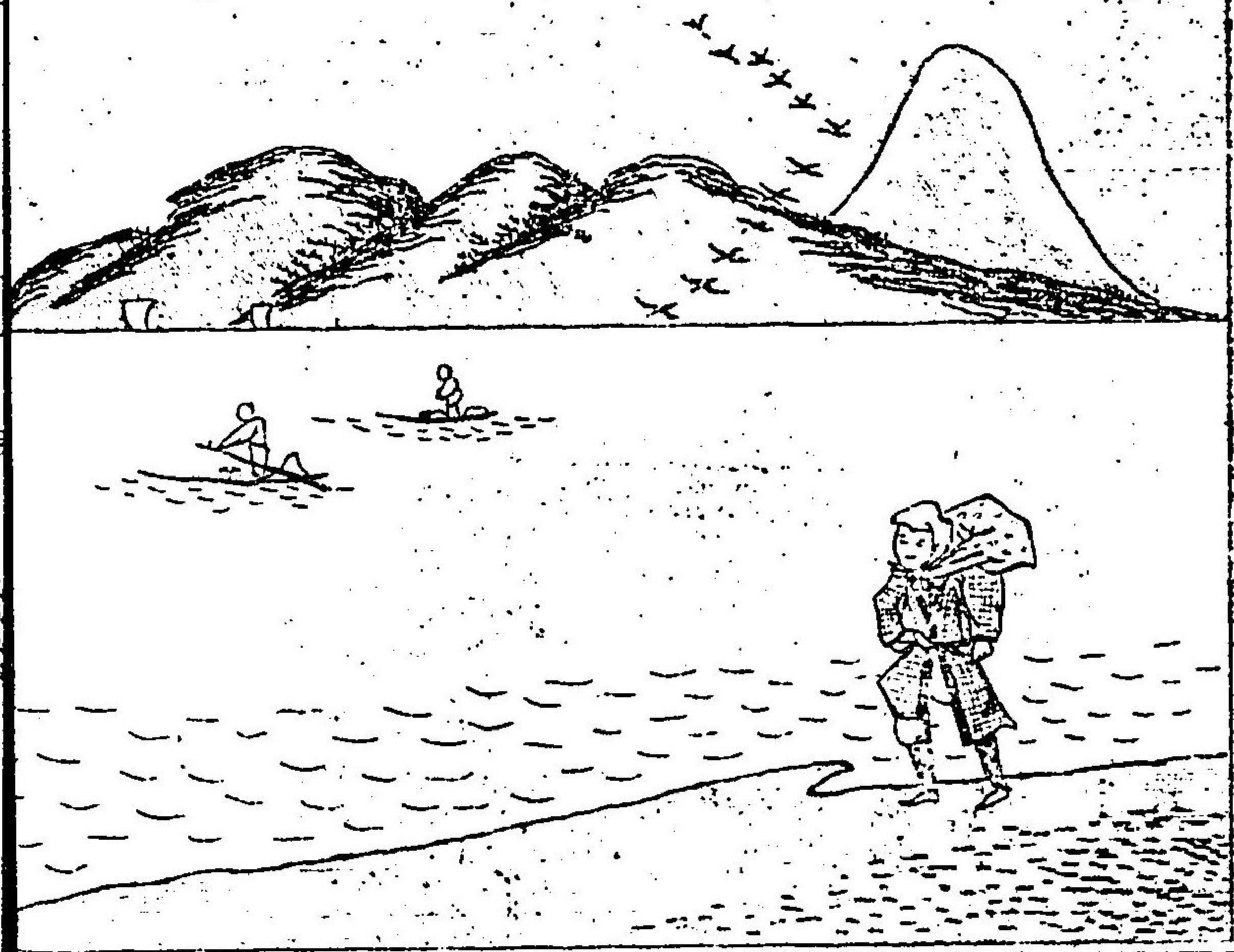
鳴く鴻

了名

時

國

あまの





申納言家持

貸しあがり  
渡せる地物

ひびきき

いさ

目ど

さあ

ける

安倍仲磨

阿まこれ

調あて

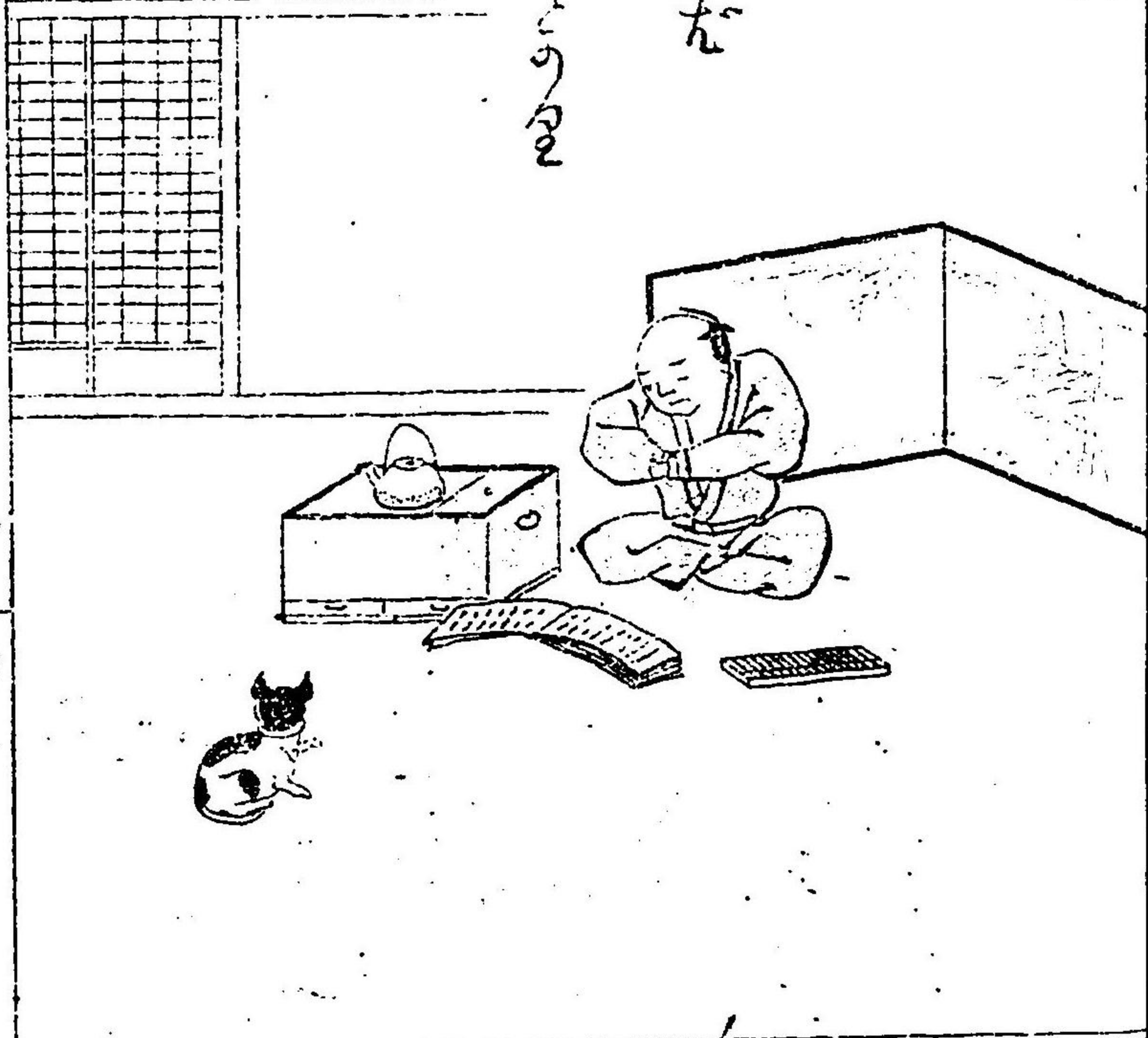
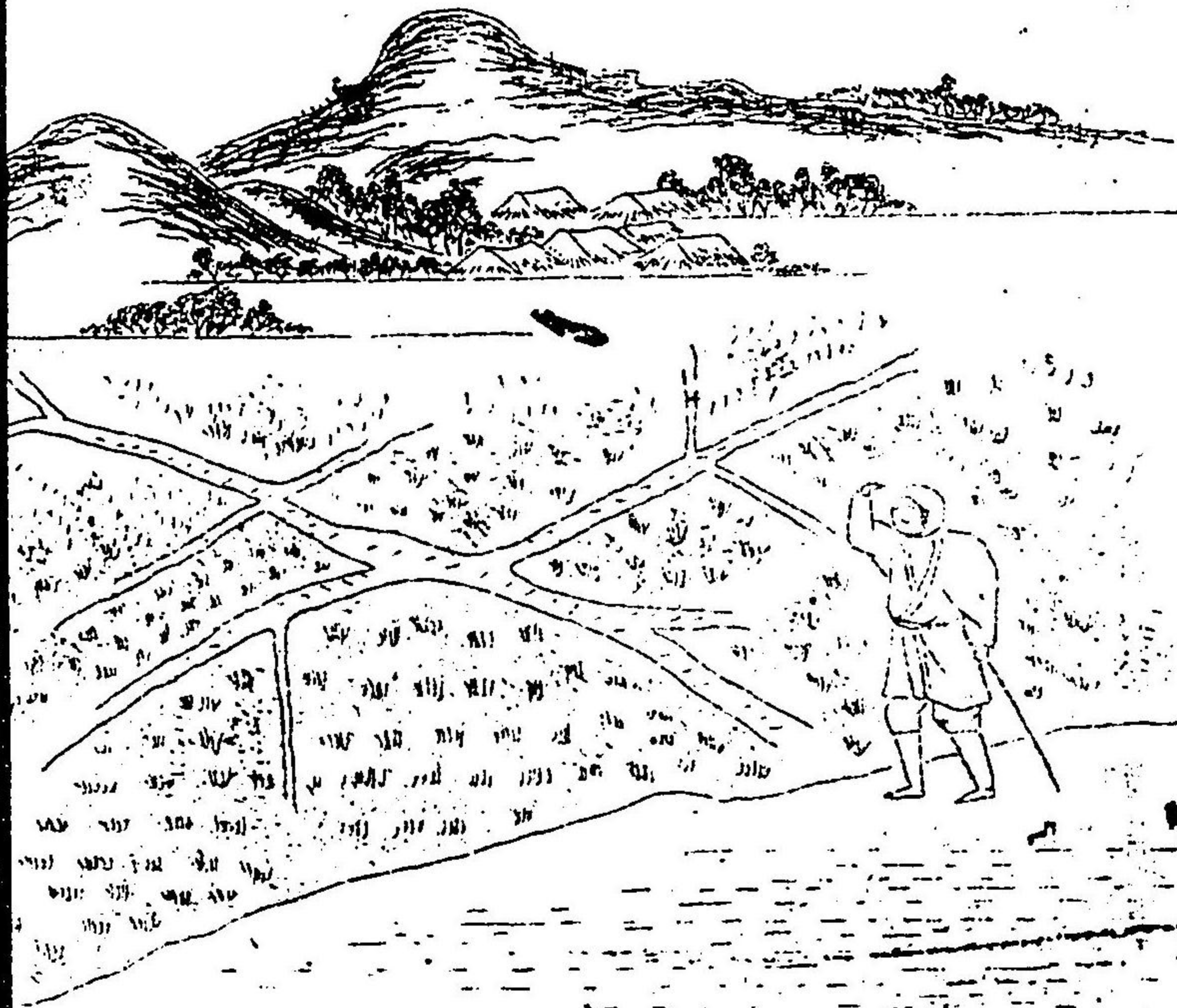
これ

か  
かこの

あ

かた

さ





小野山町

むり

とる

愛

けりあ  
お花

一時  
氣

おび

せし  
また



喜撰法師

我が家

ありは

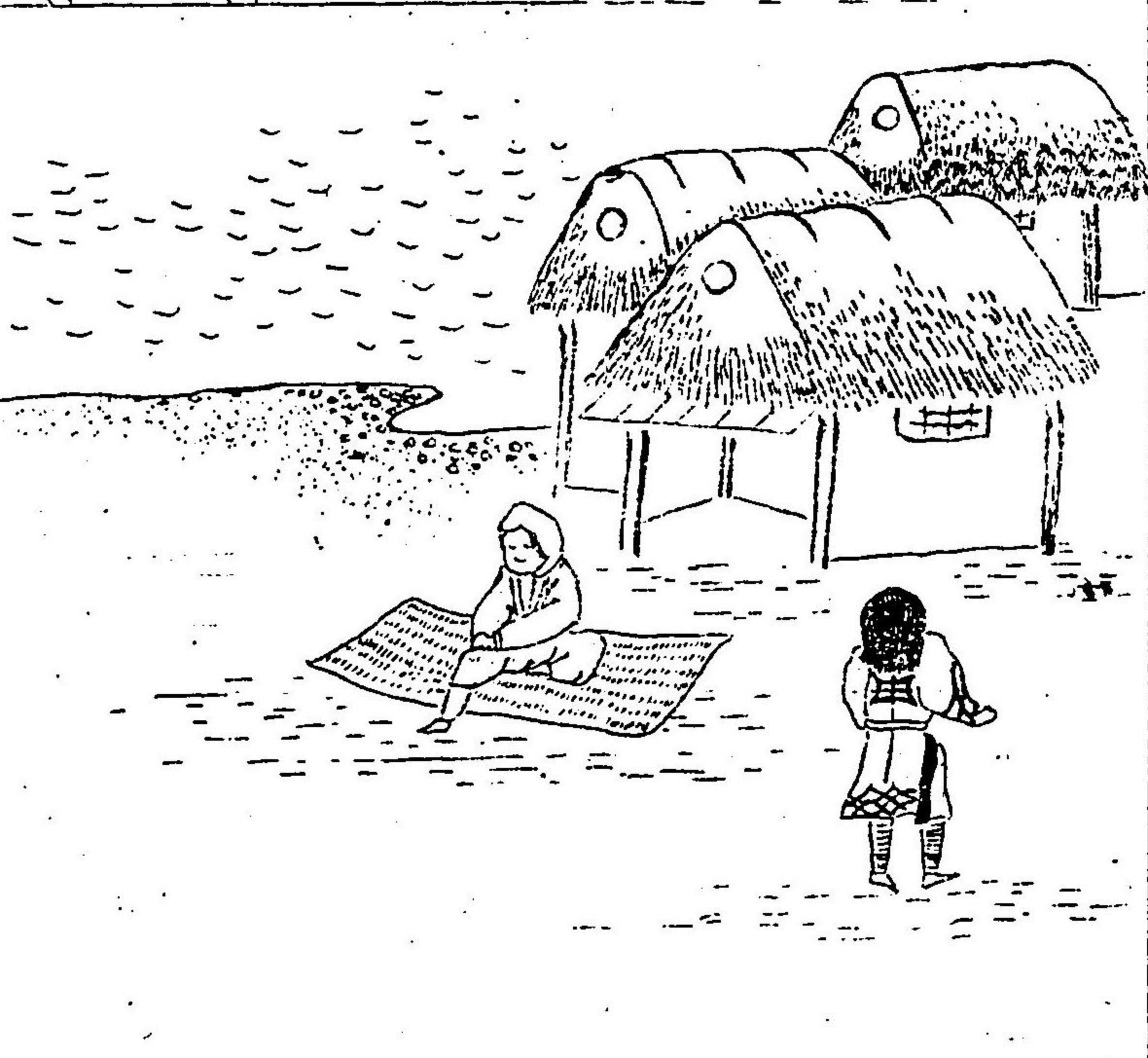
ぬき

世は馬麻

よ

人

ふ





蟬丸

こゝろ

結さ

返り

浮

死ぬ

も

志

雷電

参議

りかり

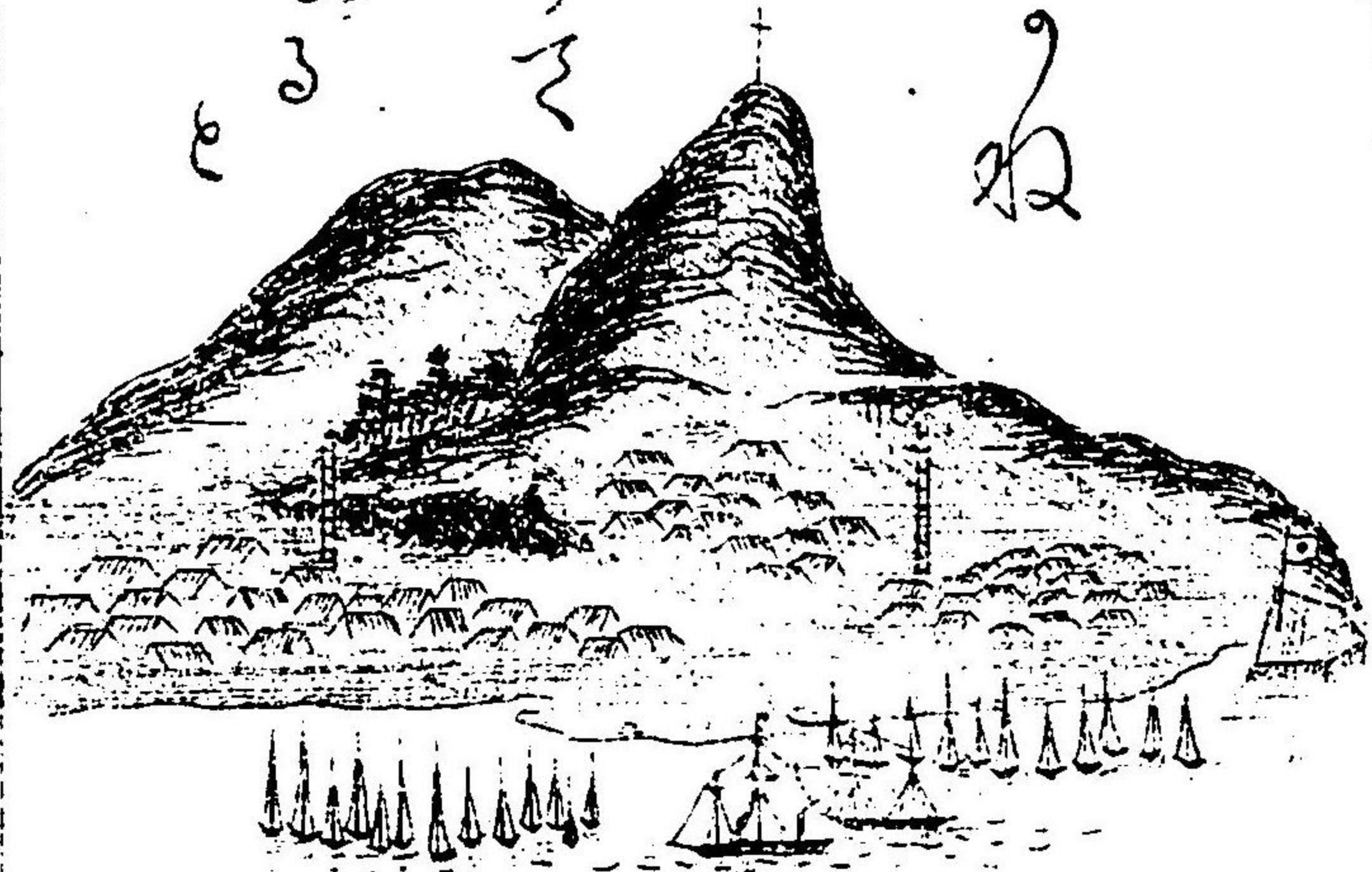
ぬ

函

さ

た

と



人

告

孫

代





徳正通昭

雨よぬき

月明り

まじ

肩ひの

す

志が

也

い

陽成院

清れちの

であ

肩ひの

む

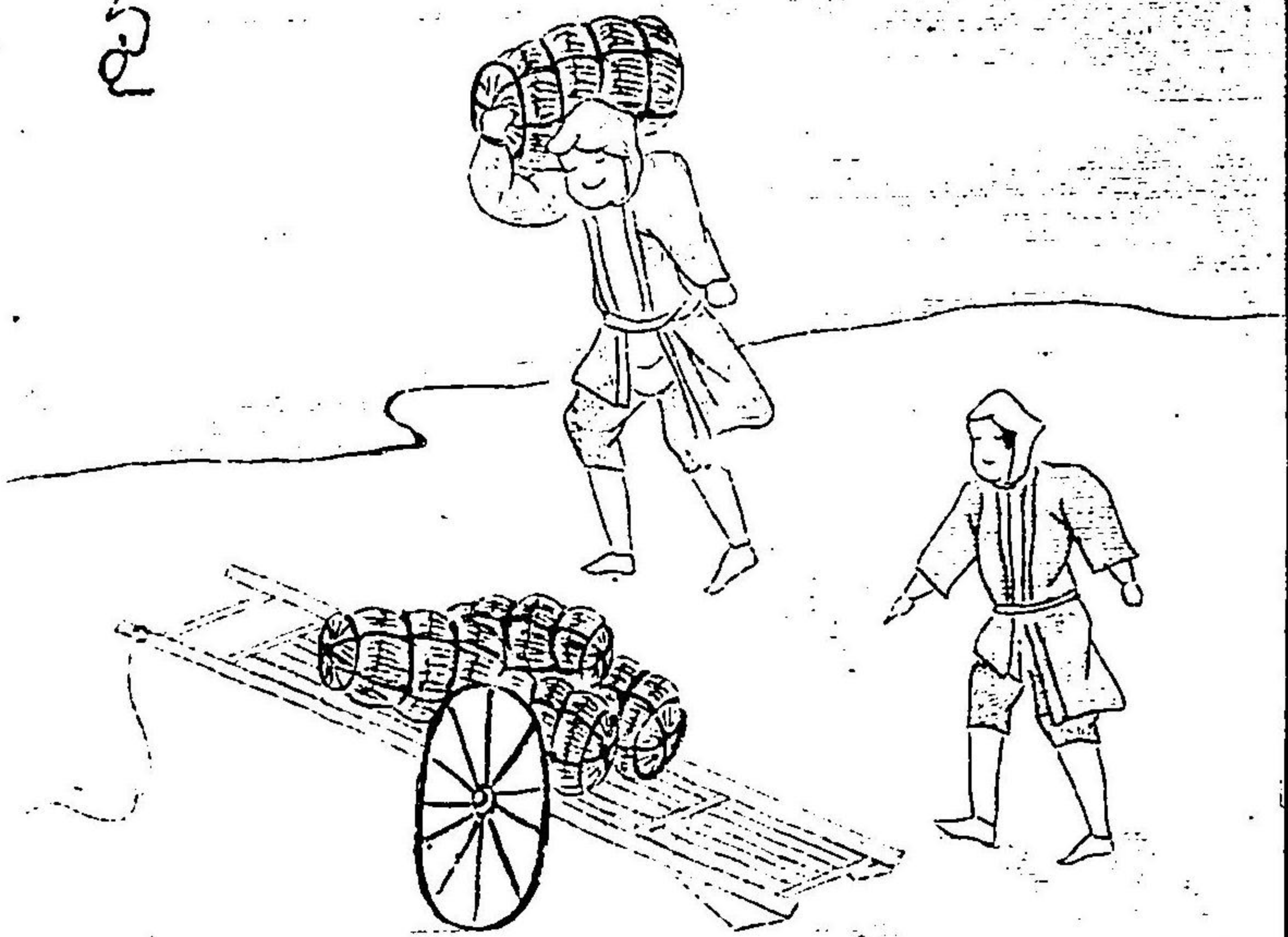
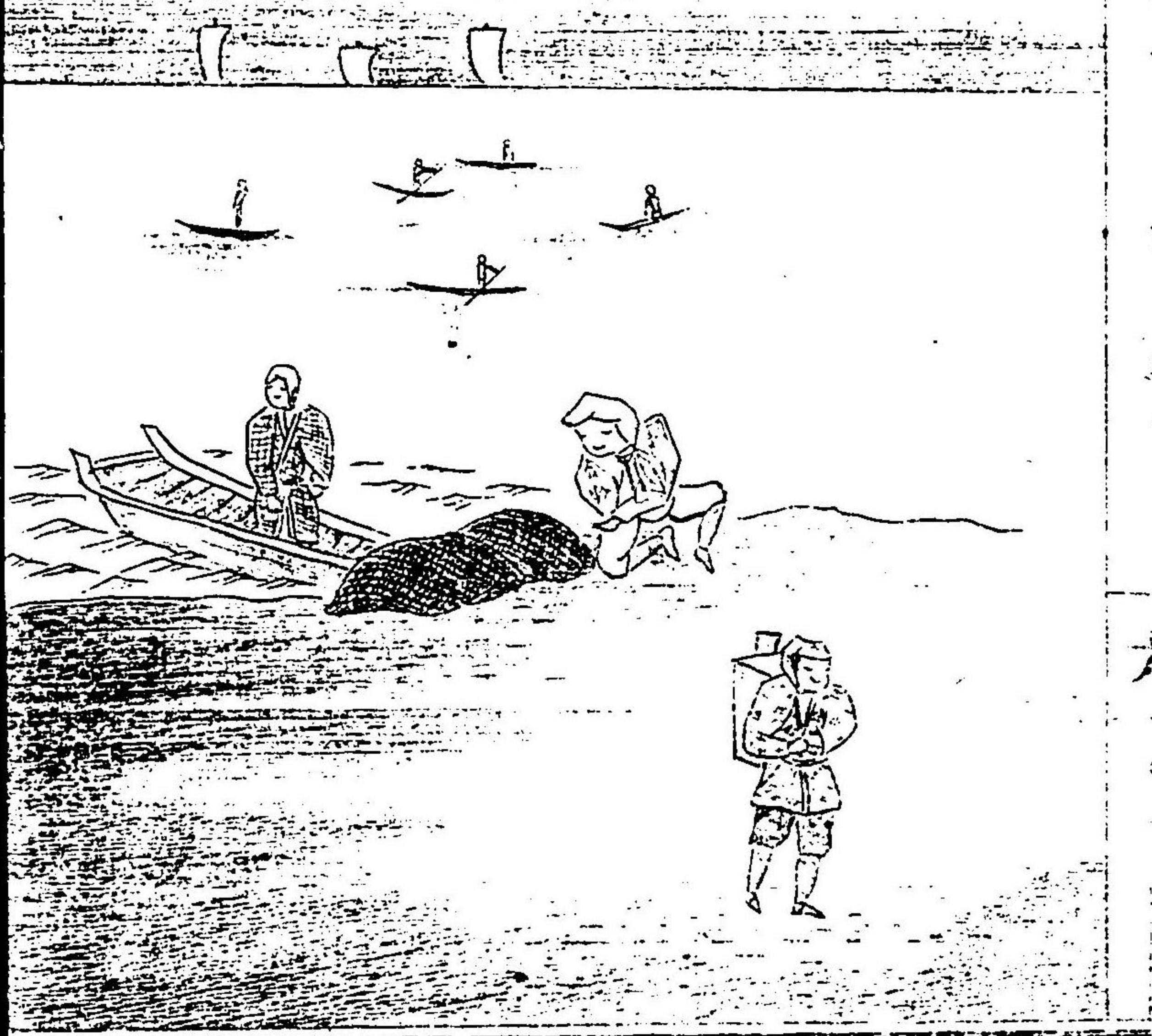
とれ

り

愛

すが

い





河原左大臣

國を出て

苦勞

龍義

護りしど

覺えしは

己が力  
ありしか

光孝天皇

酒のたえ

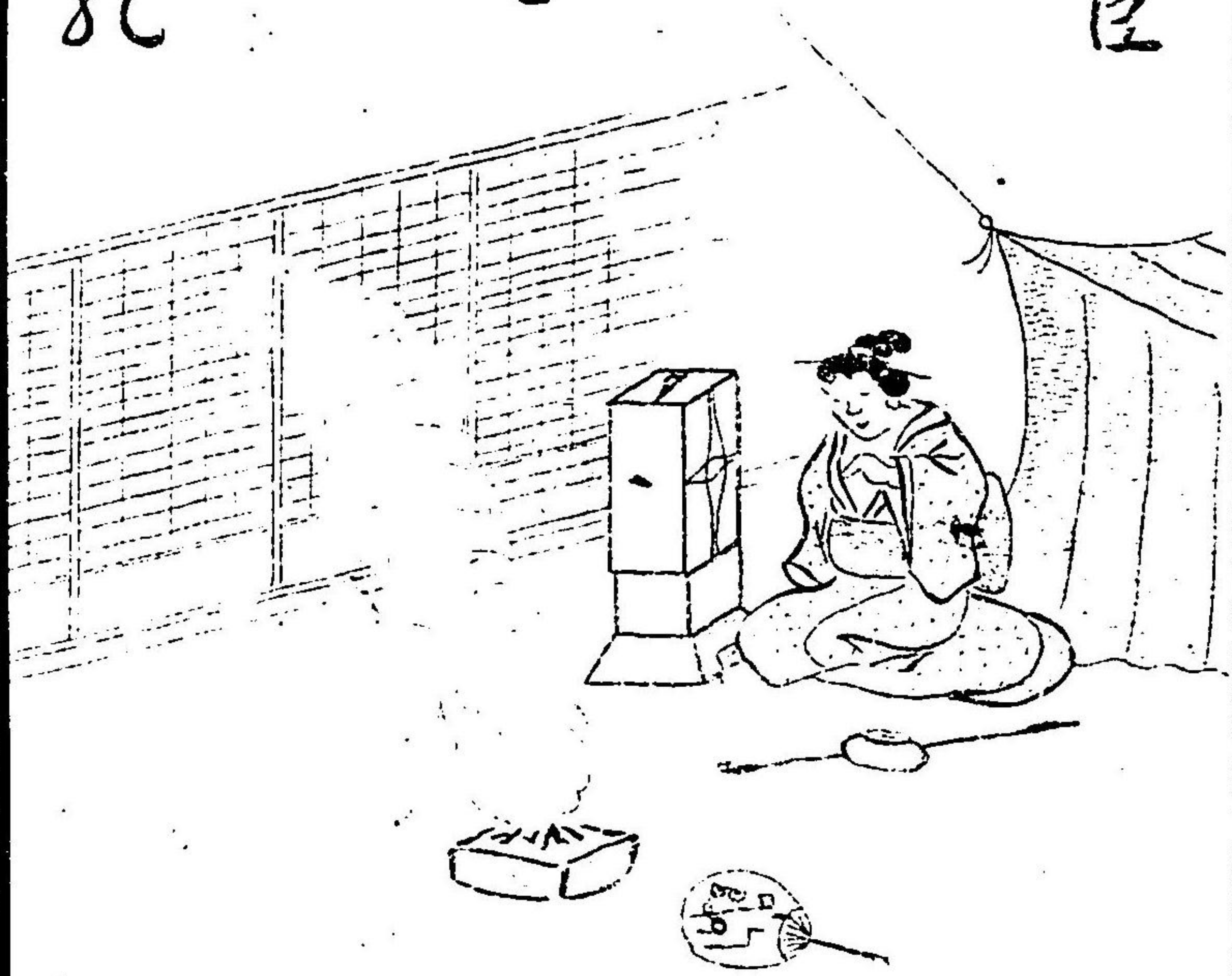
志れ

神了

出て

標ひ

き  
お



己が

衣手に

雷

ふり



申納言得平

立

出

後

妻

子



ま

か

え

は

在原業平朝臣

と

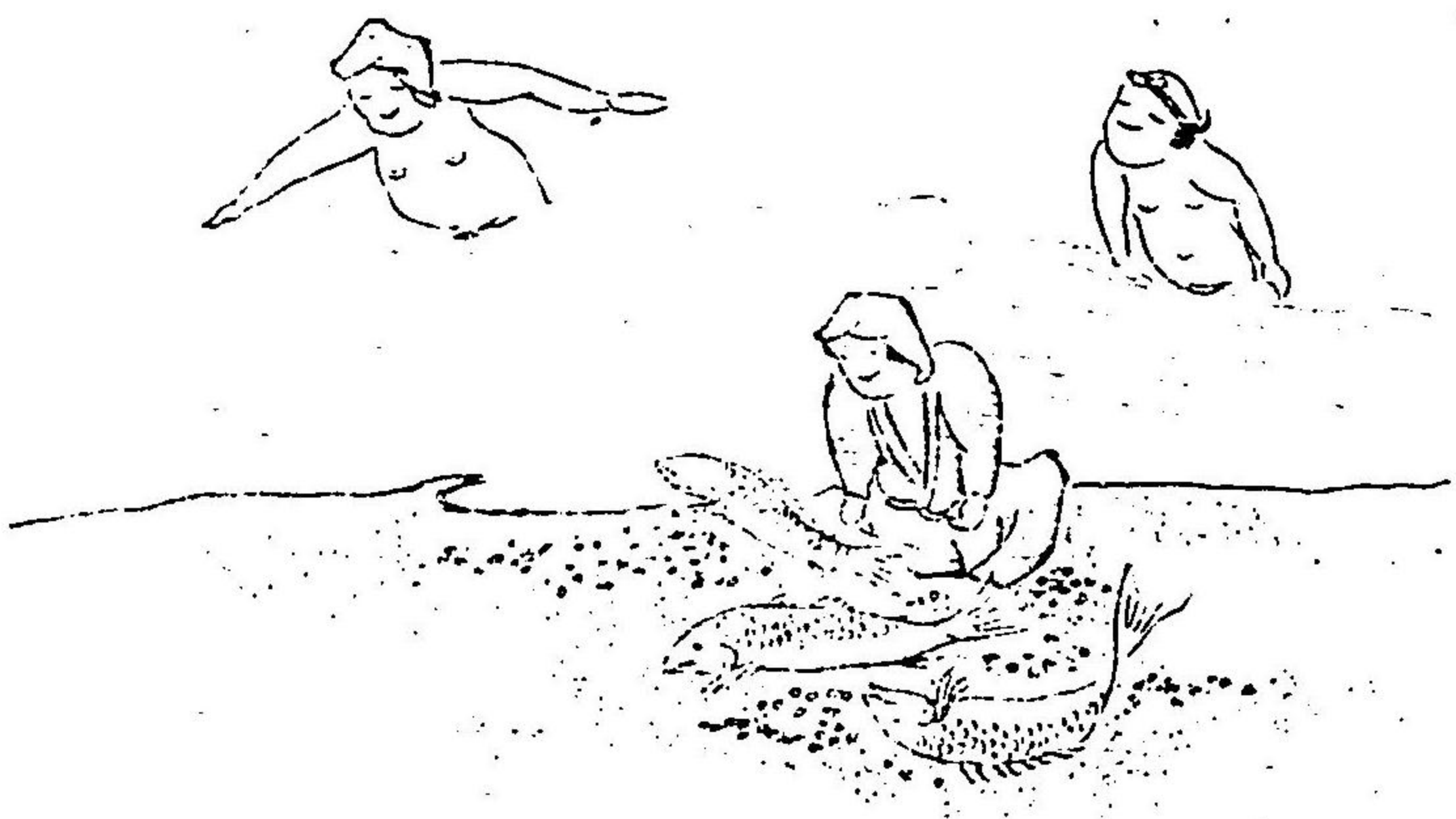
鮭魚

漁

十勝川

から

水





後原敏行館

何<sup>なん</sup>の<sup>なん</sup>の<sup>なん</sup>

吉<sup>きち</sup>郷<sup>きょう</sup>

後<sup>ご</sup>任<sup>にん</sup>民<sup>みん</sup>

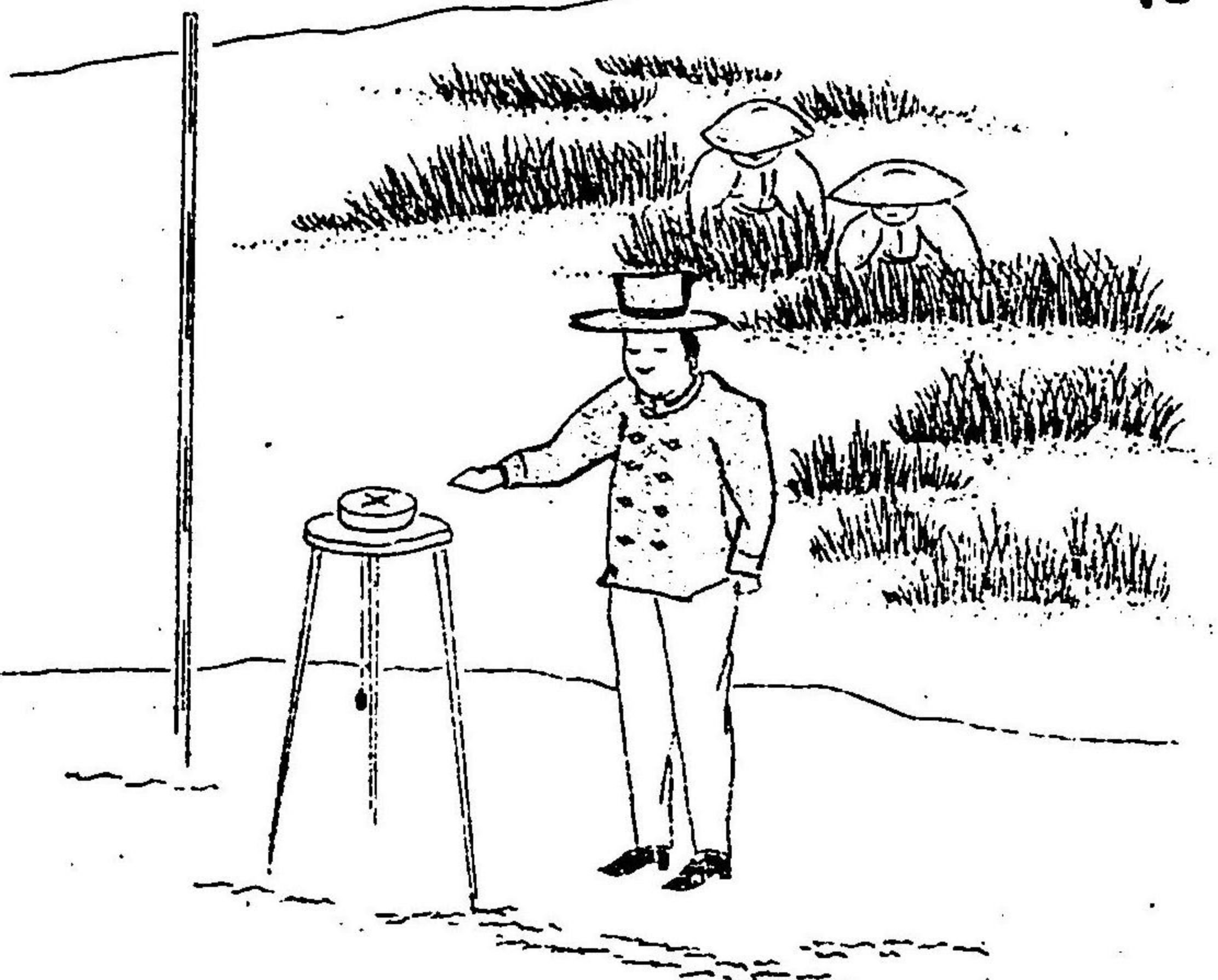
そ<sup>そ</sup>地<sup>ち</sup>

甲<sup>こう</sup>斐<sup>はい</sup>

な<sup>な</sup>ま<sup>ま</sup>

人<sup>ひと</sup>

ら<sup>ら</sup>の<sup>の</sup>ら<sup>ら</sup>



伴<sup>ばん</sup>勢<sup>せい</sup>

ち<sup>ち</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>

禮<sup>れい</sup>文<sup>ぶん</sup>雷<sup>らい</sup>電<sup>でん</sup>

増<sup>ぞう</sup>産<sup>さん</sup>

あ<sup>あ</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>

す<sup>す</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>

す<sup>す</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>

す<sup>す</sup>の<sup>の</sup>ま<sup>ま</sup>





元良親王

いひめまじか

今更おぼし

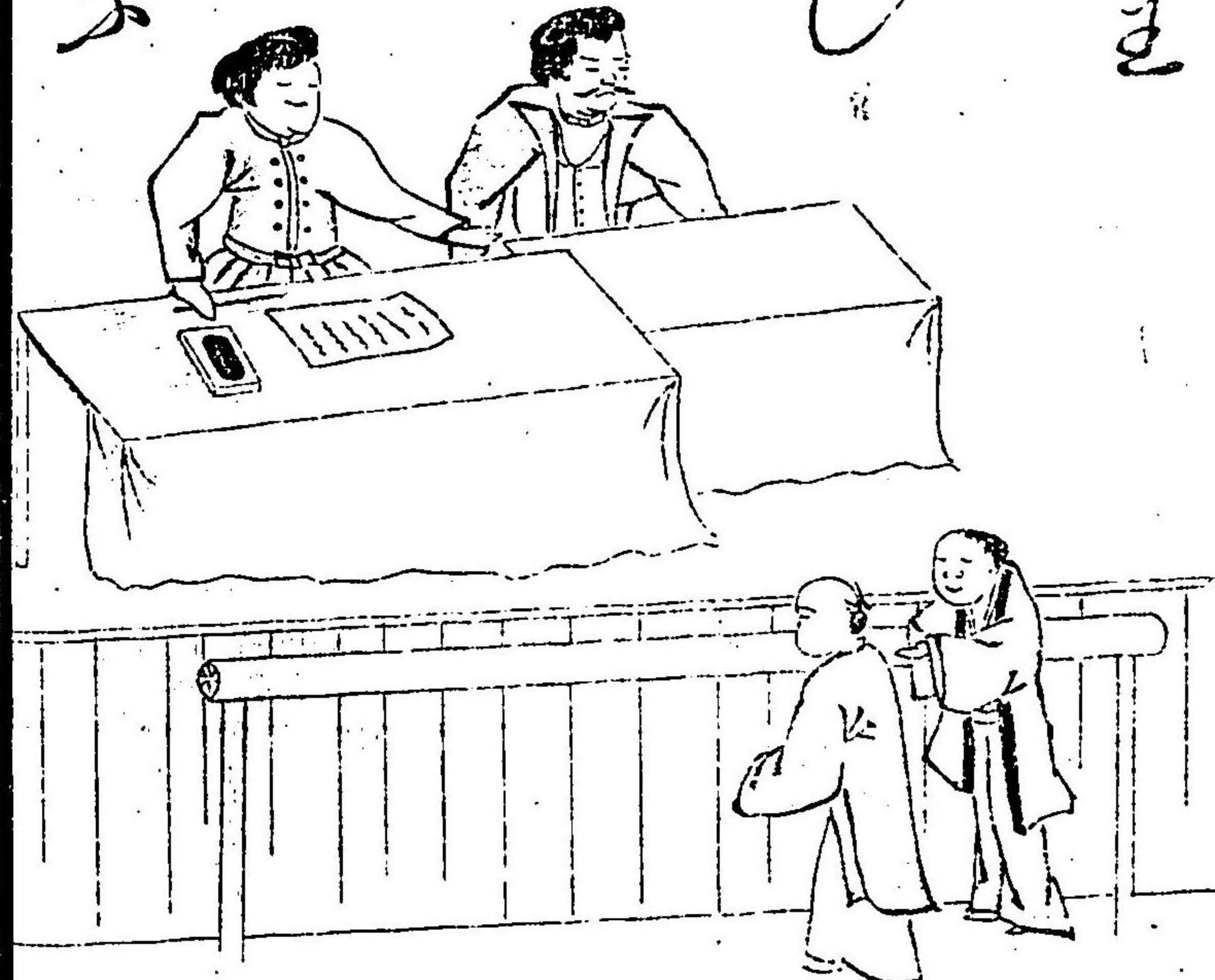
懐く

身成

ついで

取らん

おぼし



嘉徳法師

今

年

丁未

孫心

後氏

まじ

福

いひ

糸の

日





大江千里

まきくれば

千里

おまひ地

まきくれば

る

る

の

はらふど

野家

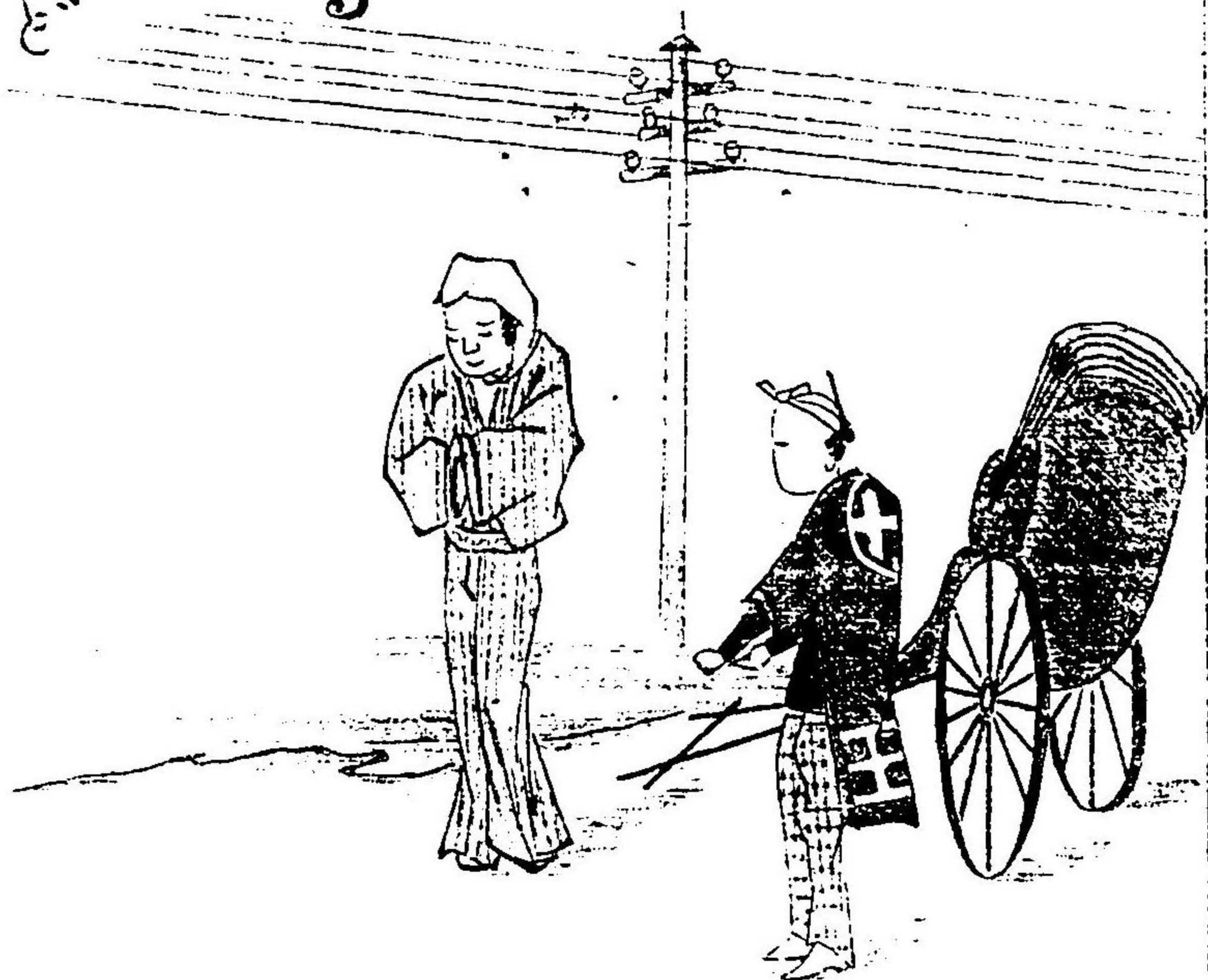
木のつげ

思ひも

七きむら

土地り

上のまき





文屋康秀

海

野

志

志

山

山

山

三條右大臣

か

令

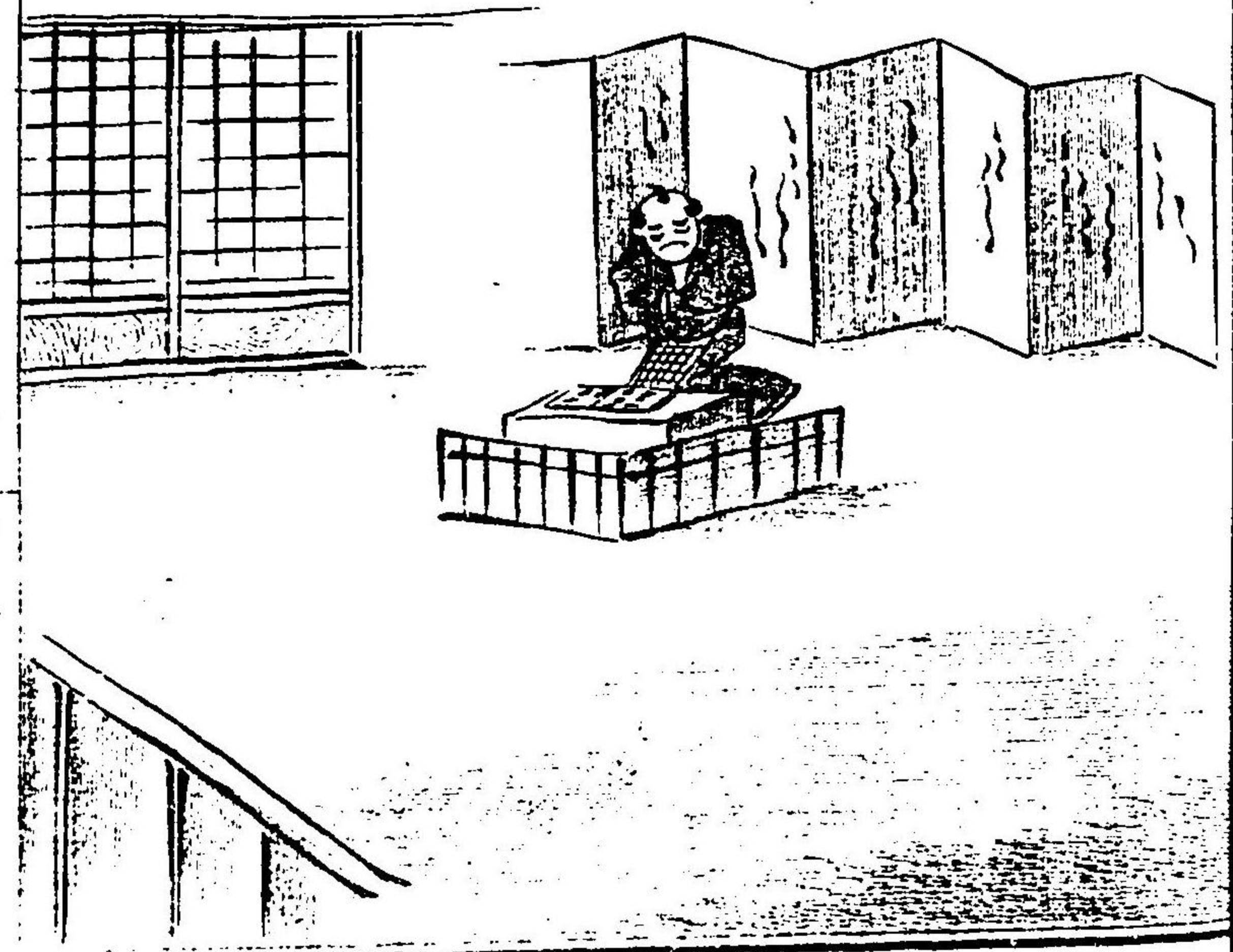
山

人

山

山

山









源宗行朝臣

山のせき

おど

漁業

まさき

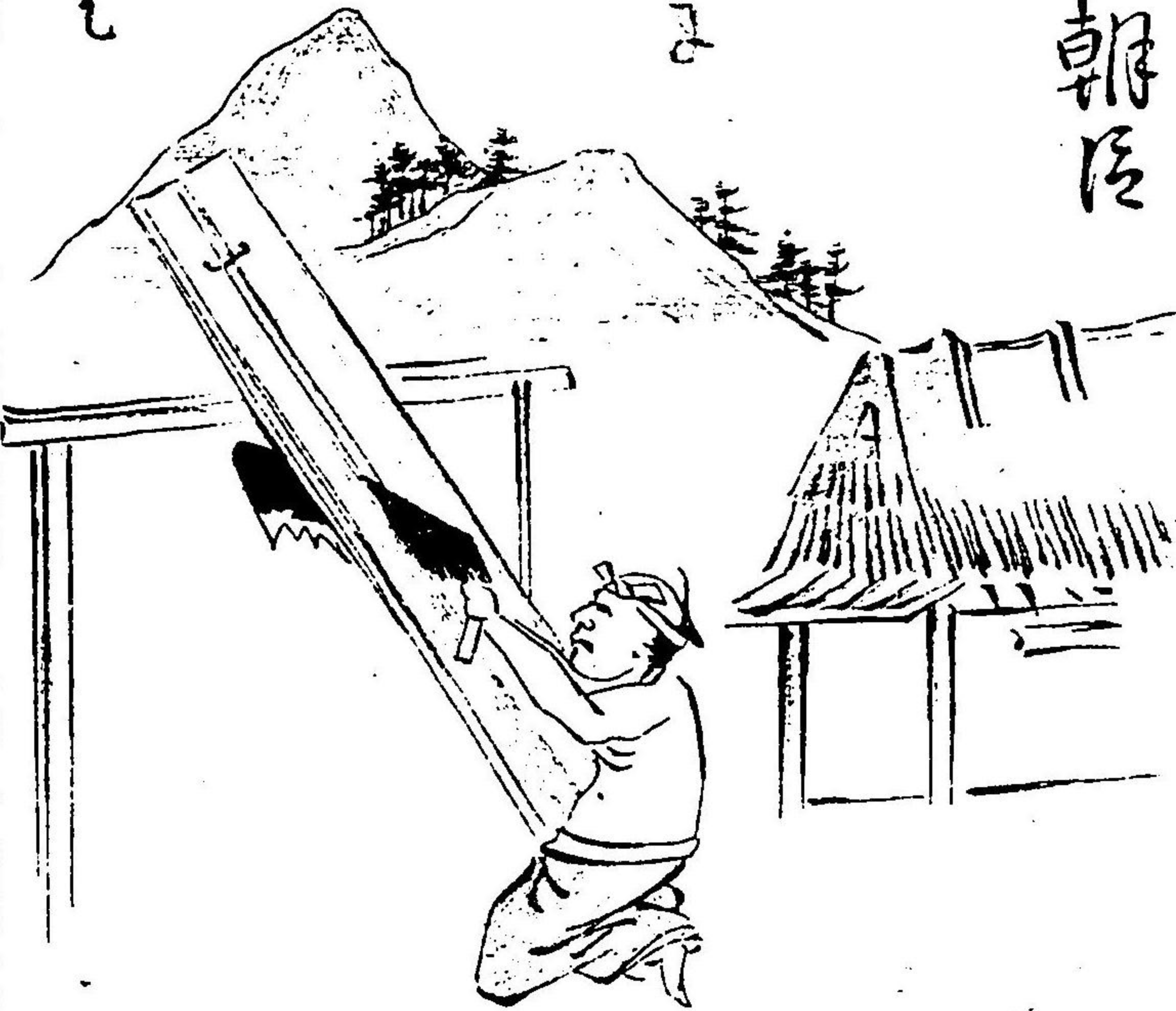
くさ

人

をさ

おらぬと

おもえ



凡河内朝臣

人

仕込

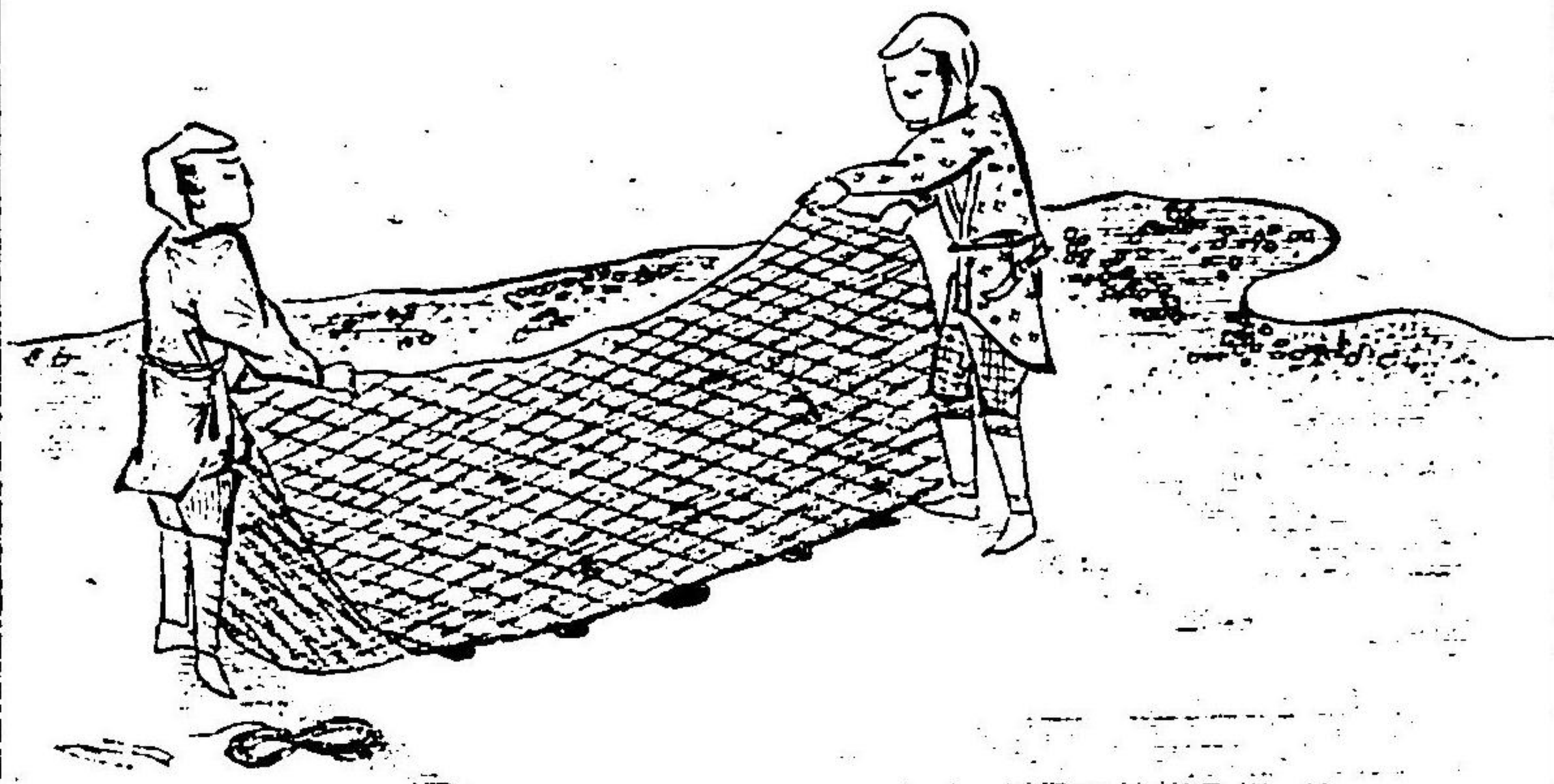
う

練

不漁

そ

あ





至生忠峯

巧くはの

品

あつ 買ひ

つぎ やふ

ばの利 服

よま

この言あし

坂上是則

ねがらけ

海きこ

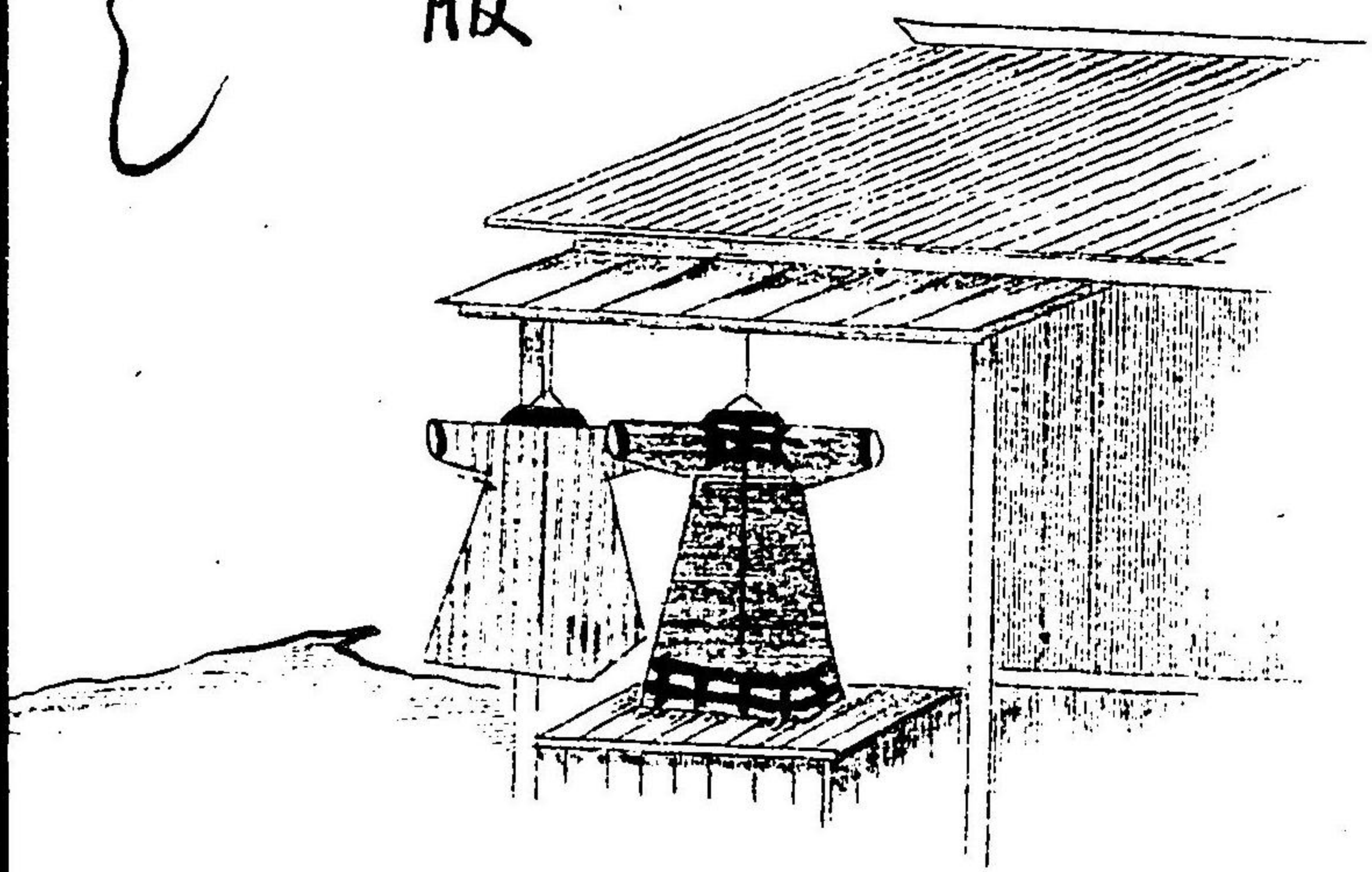
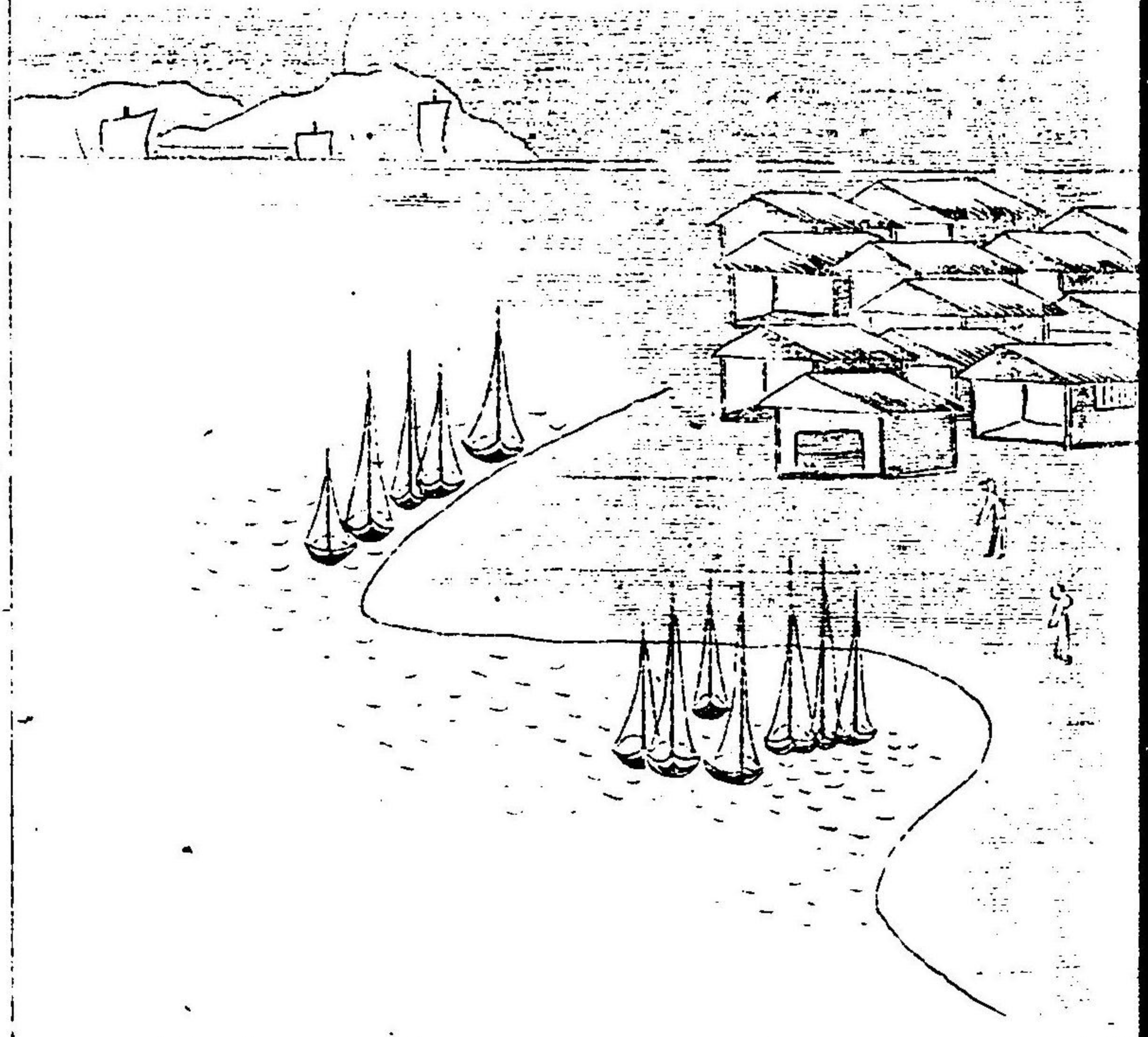
神遠

あつ

根室の

ぬれ

志ら雪





春道列樹

山川の雪の

うけしる

志がらみ

流きも

河をぬ

氷が

り

紀友則

久あは

のとき

日

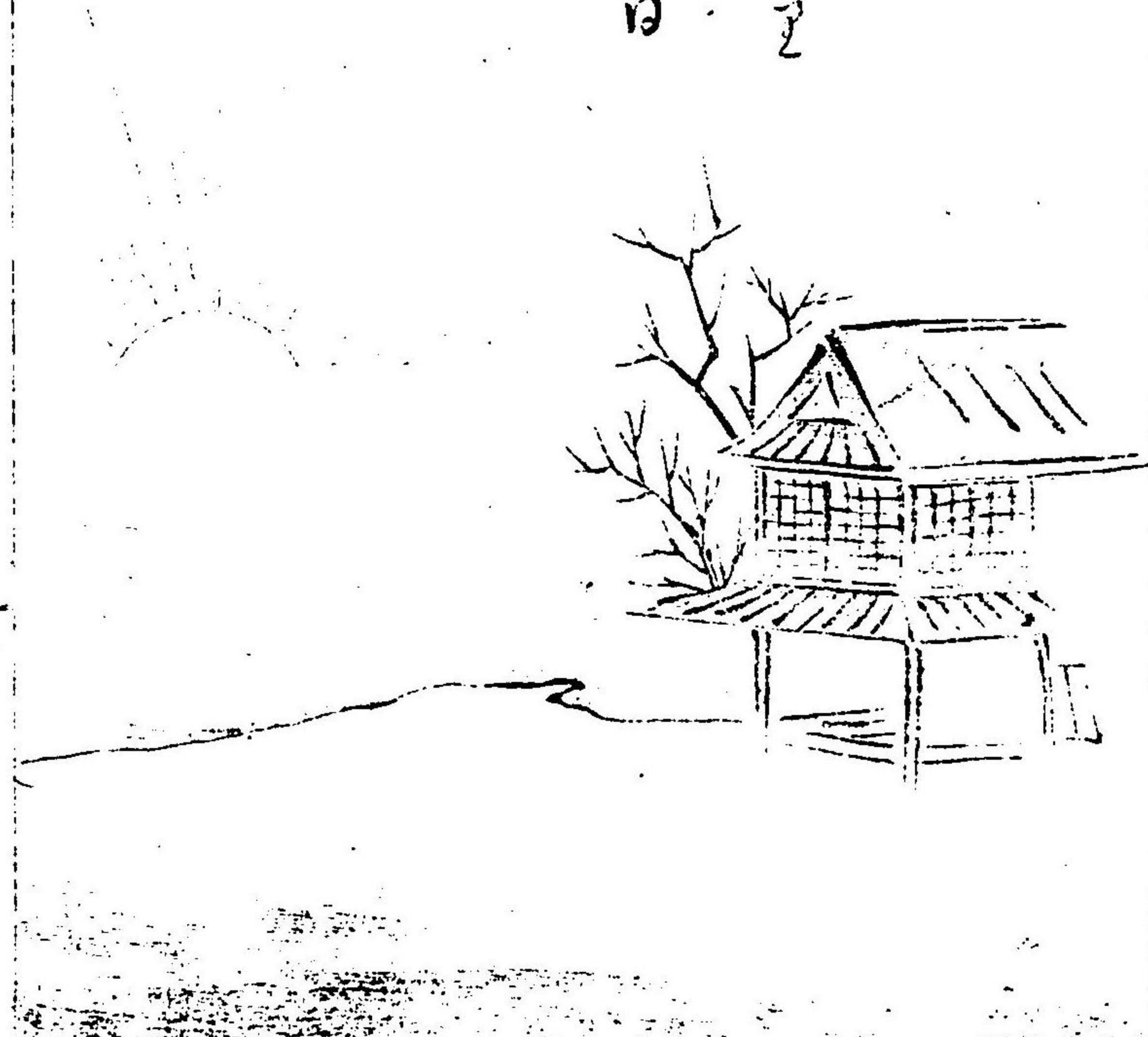
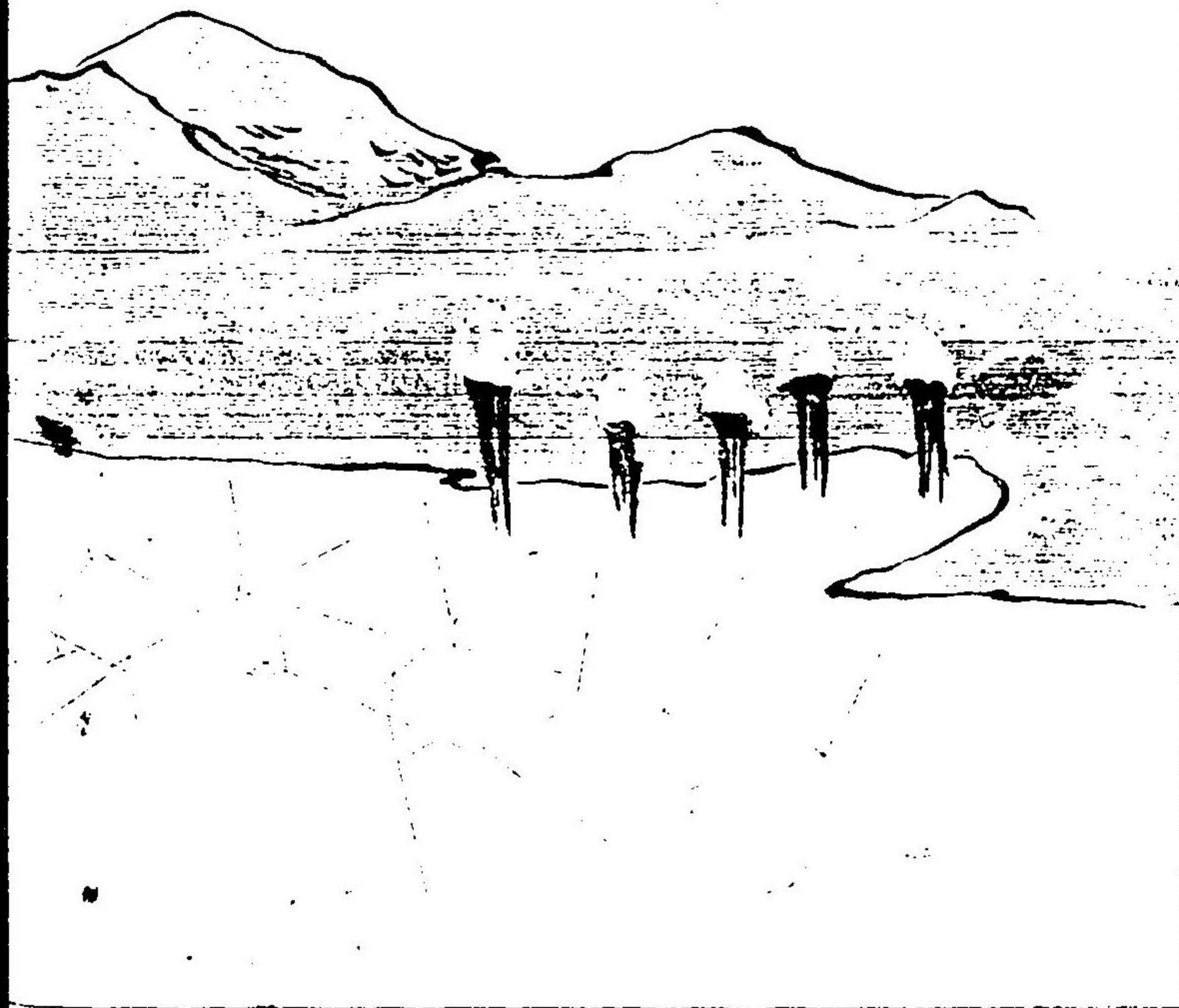
二三日

河

まよ

らる花

ま





あつこ  
浅から

むあつこ

りふも

下宿屋よ

知る人ぞ  
あま

たれ  
どうも

三藤原真房

紀母之

人いざ

あられぬ

よぞ

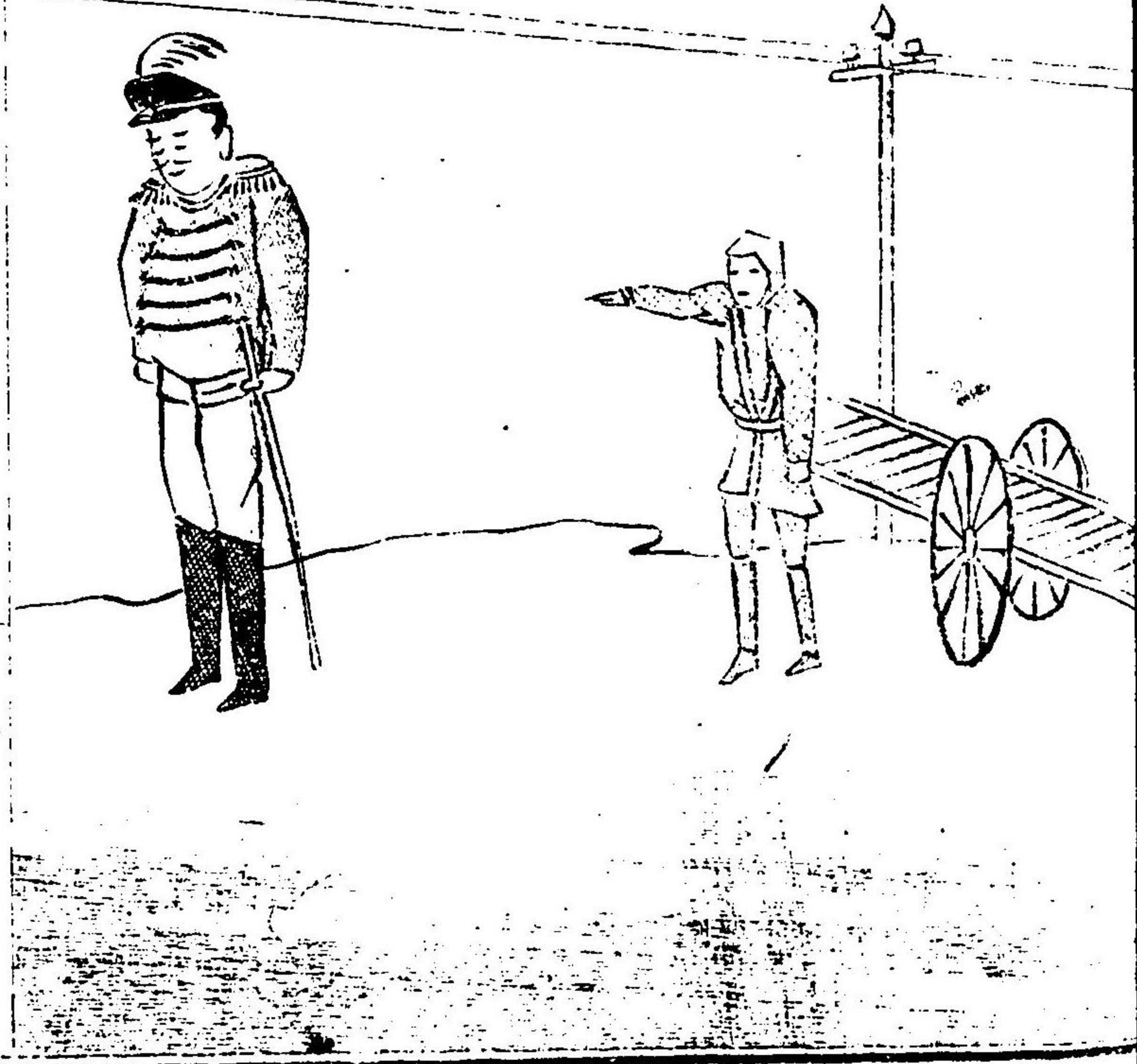
でい入

むの  
あま

國  
あま

ふん

あま  
あま





清原深養父

夏乃夕純

まごきぬ

まきと

逃げ

ま

つづこに

やまの

うらむ



文彦朝康

高瀬のうらよ

あぶら

昆布湯

つら

まよ

玉枕

あせちる





右近

あまきし

あま

おをす

あま

あま

あま

あま

参議寺

あま

あま

あま

あま

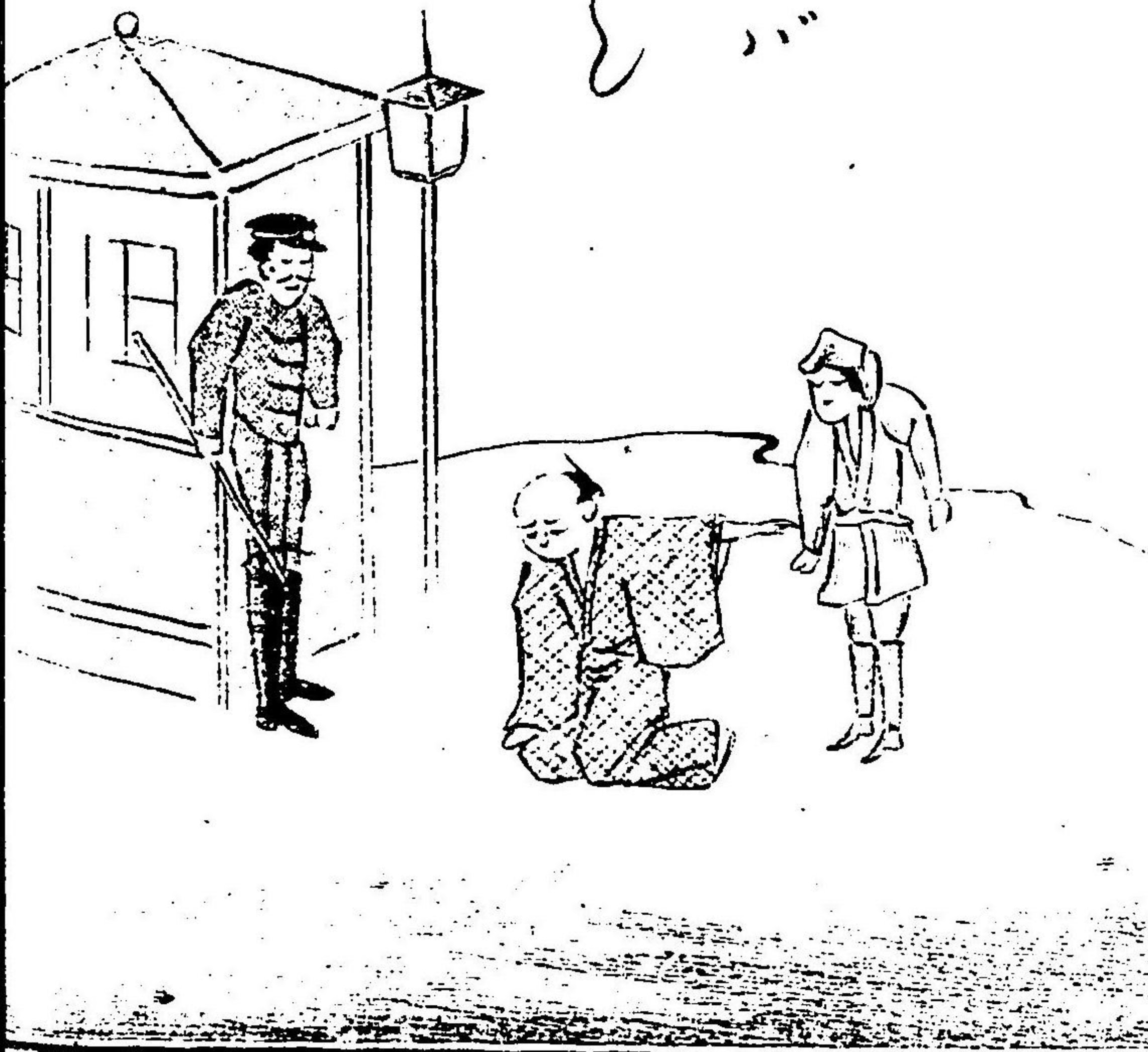
あま

あま

あま

あま

あま









清原元輔

鯨

り  
めれ  
て

袖

志

つ

波

は

き  
ん  
は

て

中納言敷忠

若きとき

今のころ

ふれ

む

え

思





中納言朝忠

儲事純

たえ

な

な

人

義

思

思

謙徳公

何れ

子

親

す

牙

氣

た

な





曾祿好忠

雪后残

たふさ

旅人

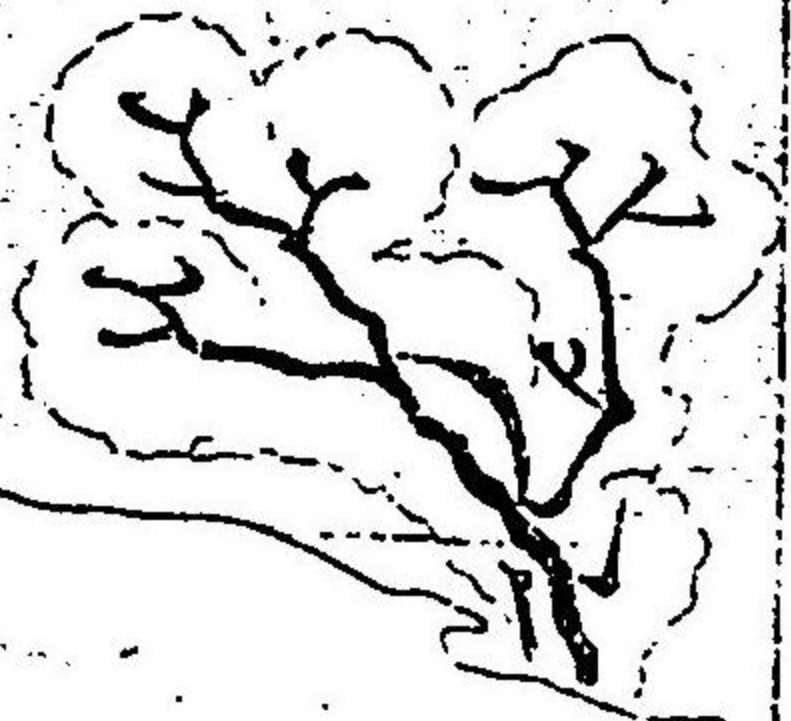
かへも

行跡も

たふさ

北見

園子



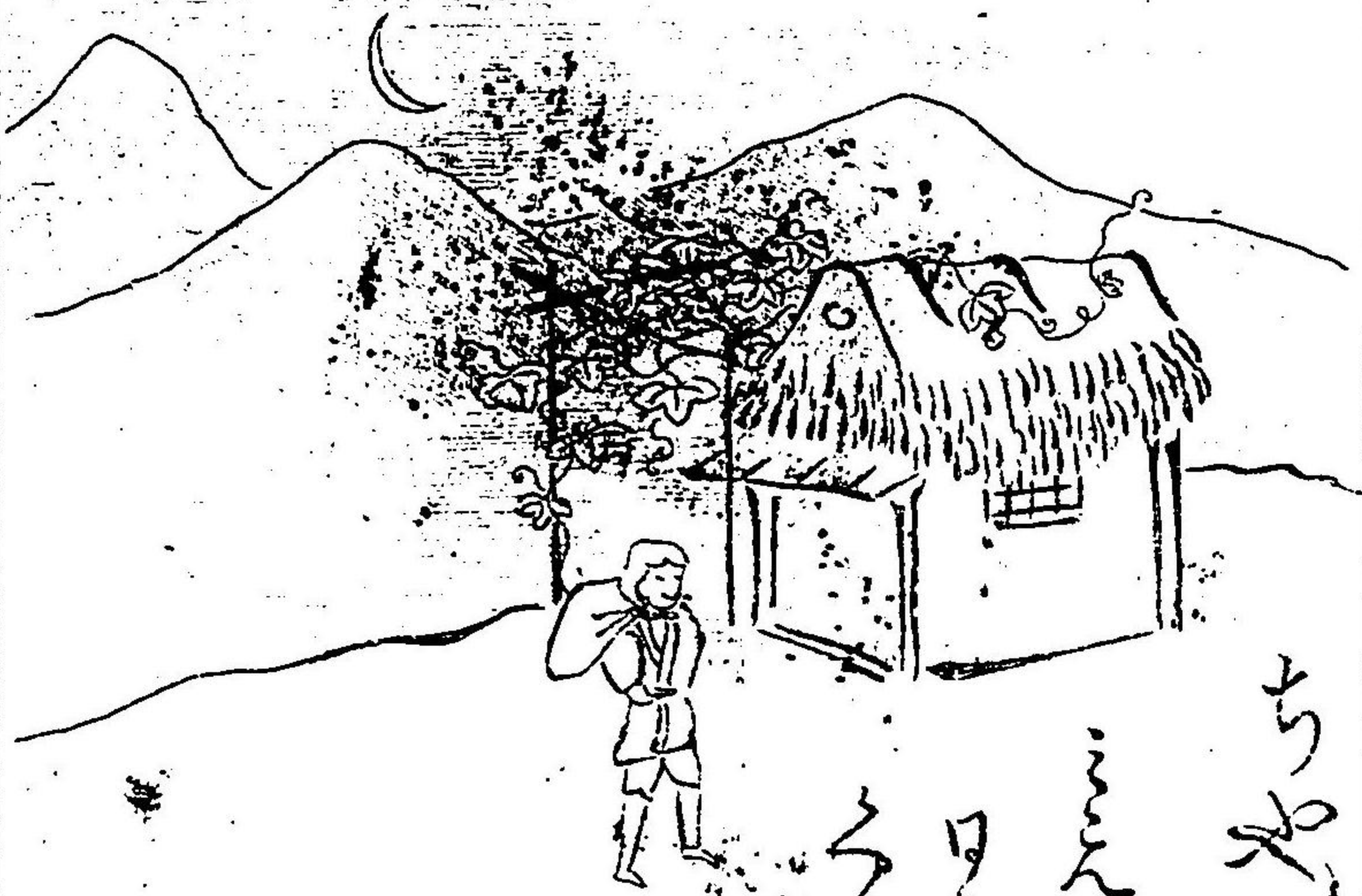
惠慶法師

あつた

き

。し

あつた  
。し



あつた

き

。し

あつた

。し



源之

風の

岩

波

之

袋

も

ん

紫式部

あ

は

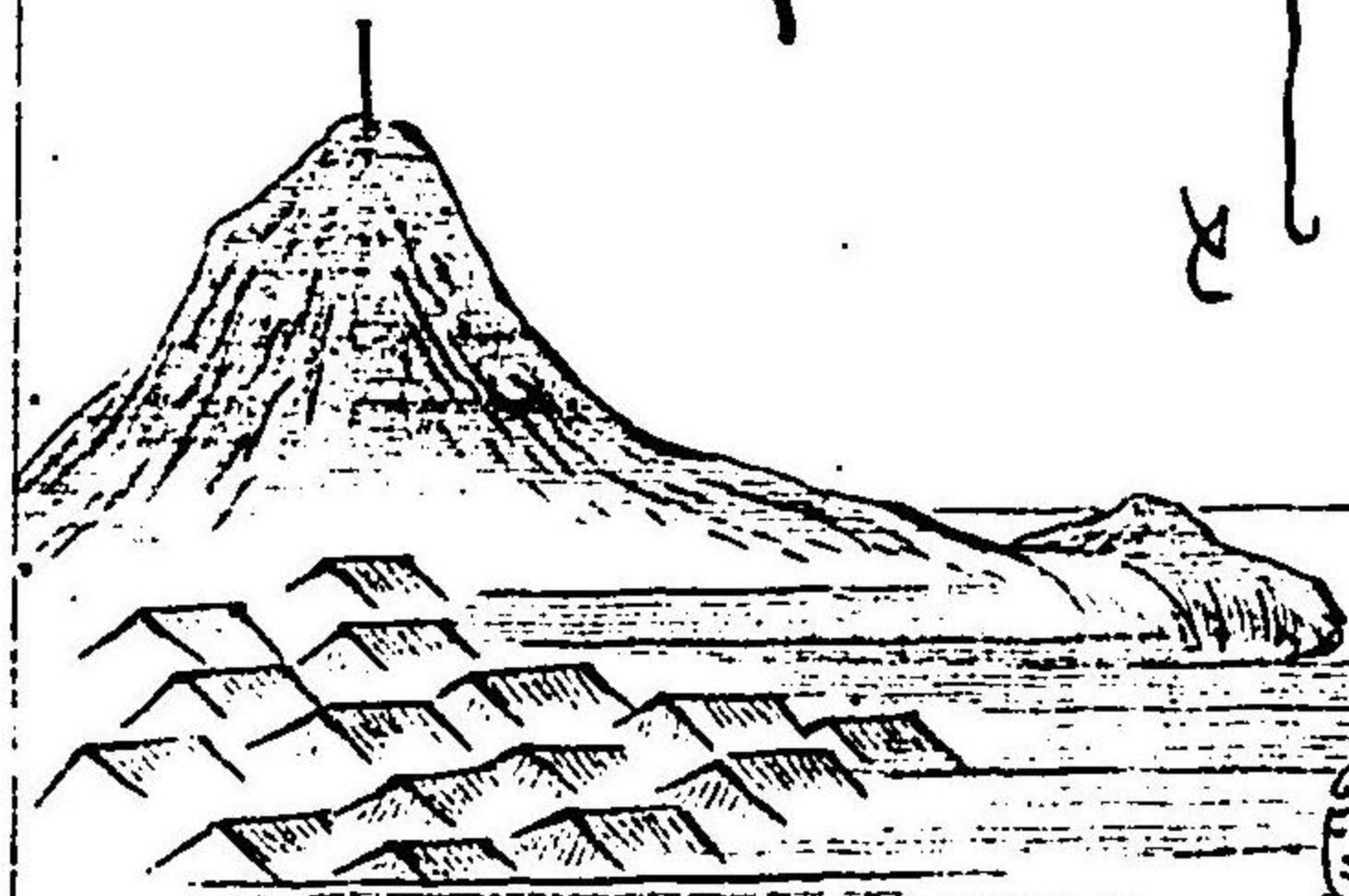
お

雲

の

す

函





大貳三位

秋の来て

ねるれ

いりけりけ

たし

いで  
あし

船の

なまぎ

とて

まぶ

赤漆渡門

やまのりだ

日比布

支那

う里

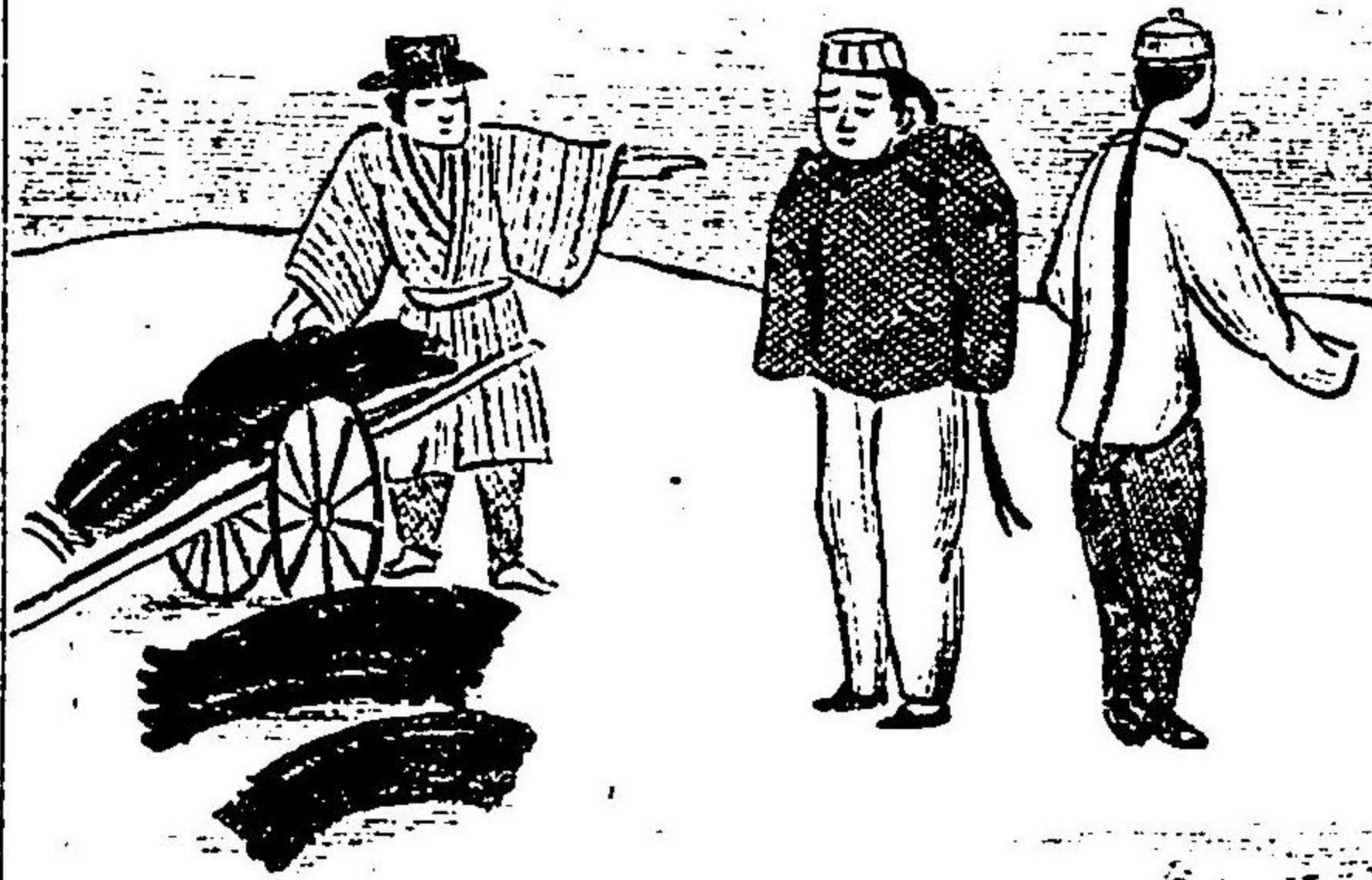
こみ

かくちるま

もろけ

見し

あね





小式部内侍

大や

幾度も

まはる(ま)ころも

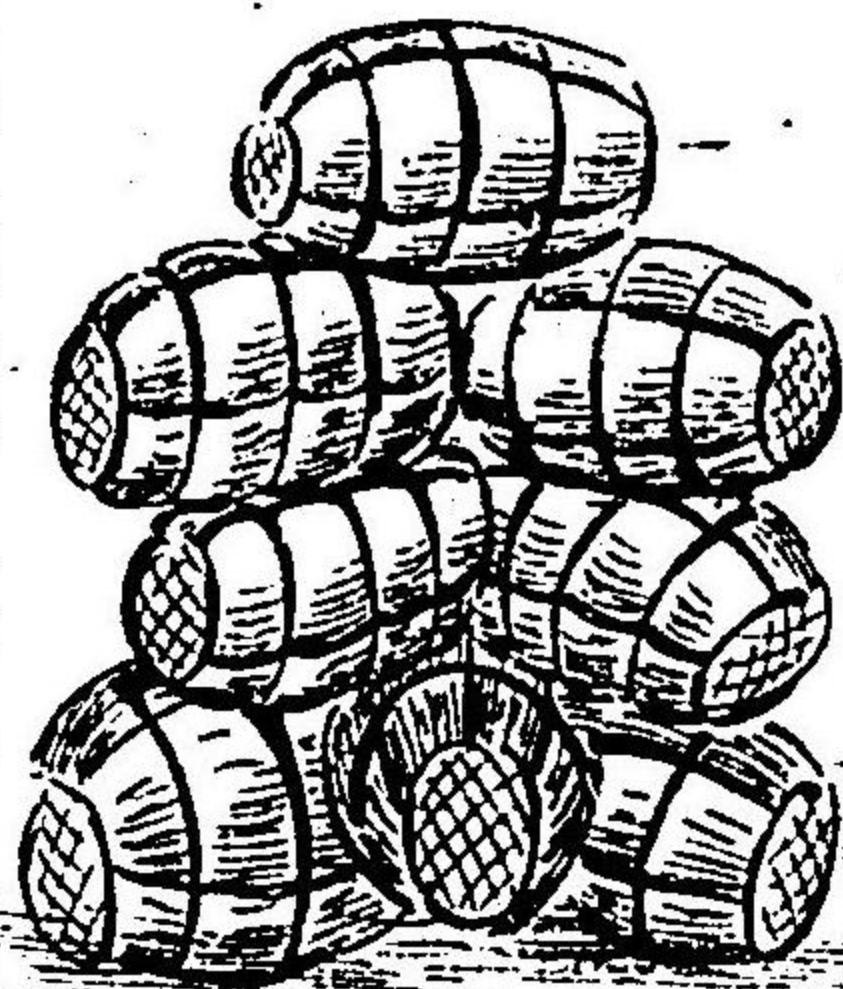
せほ

又

このきびも

あとの

くまらる



伊勢大輔

昔の

ひら

野の

すま

野の

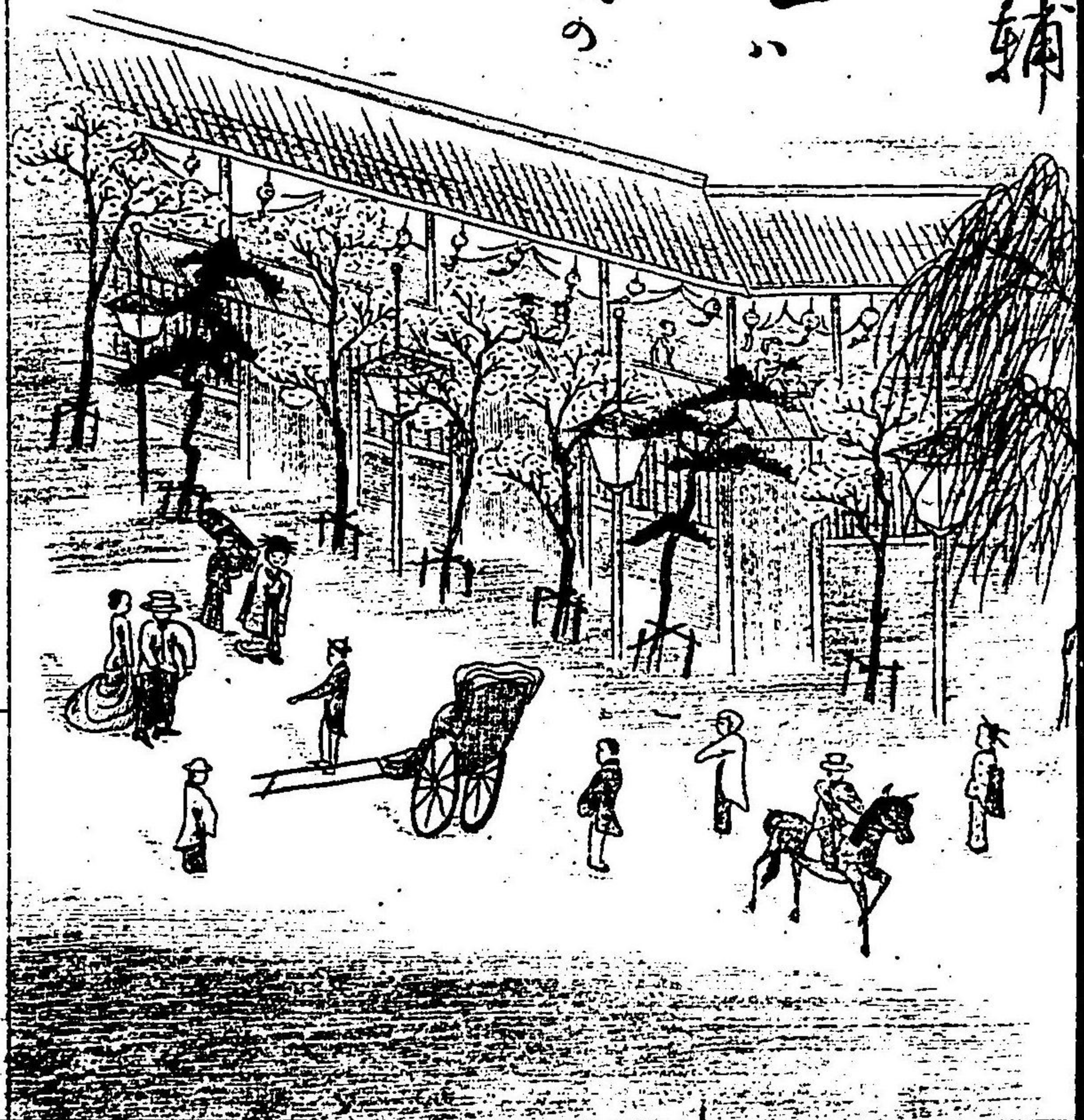
名

あ

あ

あ

あ





清山納言

夜

の

うら

ら

の

うら

九

左京右道雅

今

うら

の

うら

の

うら

うら



共



将中納言定頼

いふはふふ

らら

いふふ

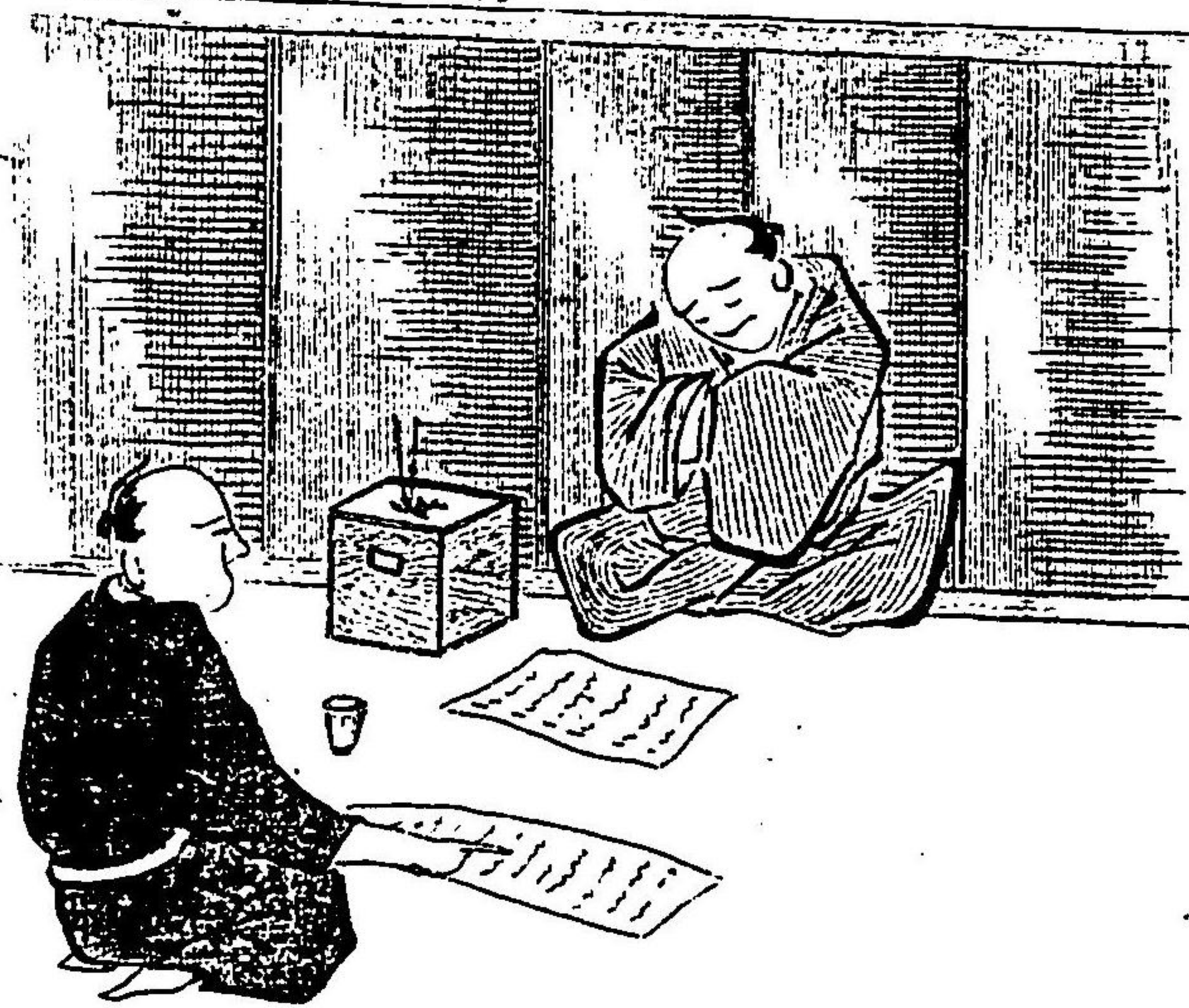
あは

あは

いふ

あは

借金



藤原實方朝臣

あは

あは

あは

あは

あは

あは





藤原道信朝臣

何ぞとて

あはれ

やまも

常

とれ



夜

の

あはれ

網

し

り

大中臣能宣朝臣

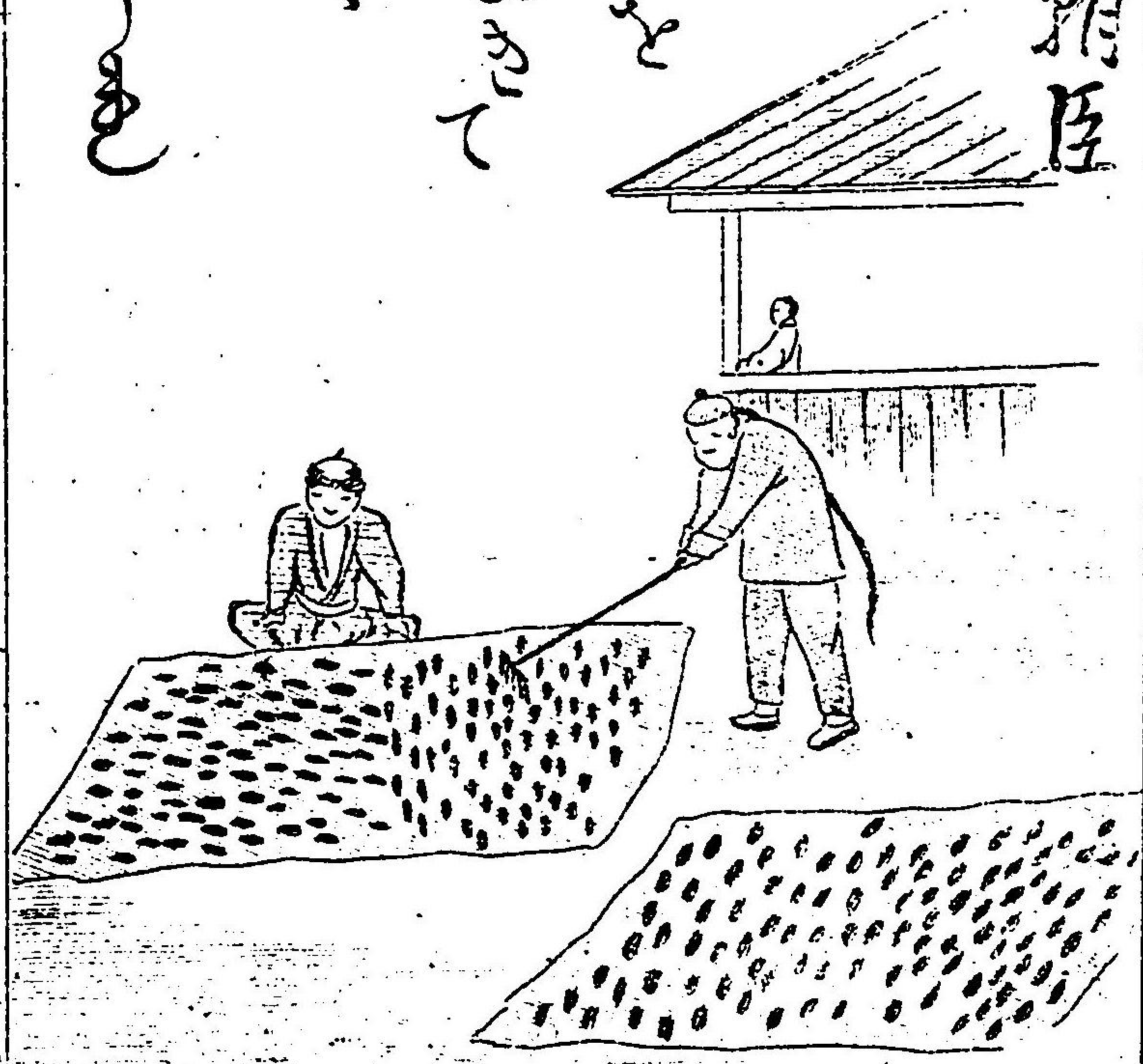
風

沖のなまこ  
生海嵐と

あはれ

あはれ

あはれ





藤原美枝孝

おのがたぬ

おまひ傷らく

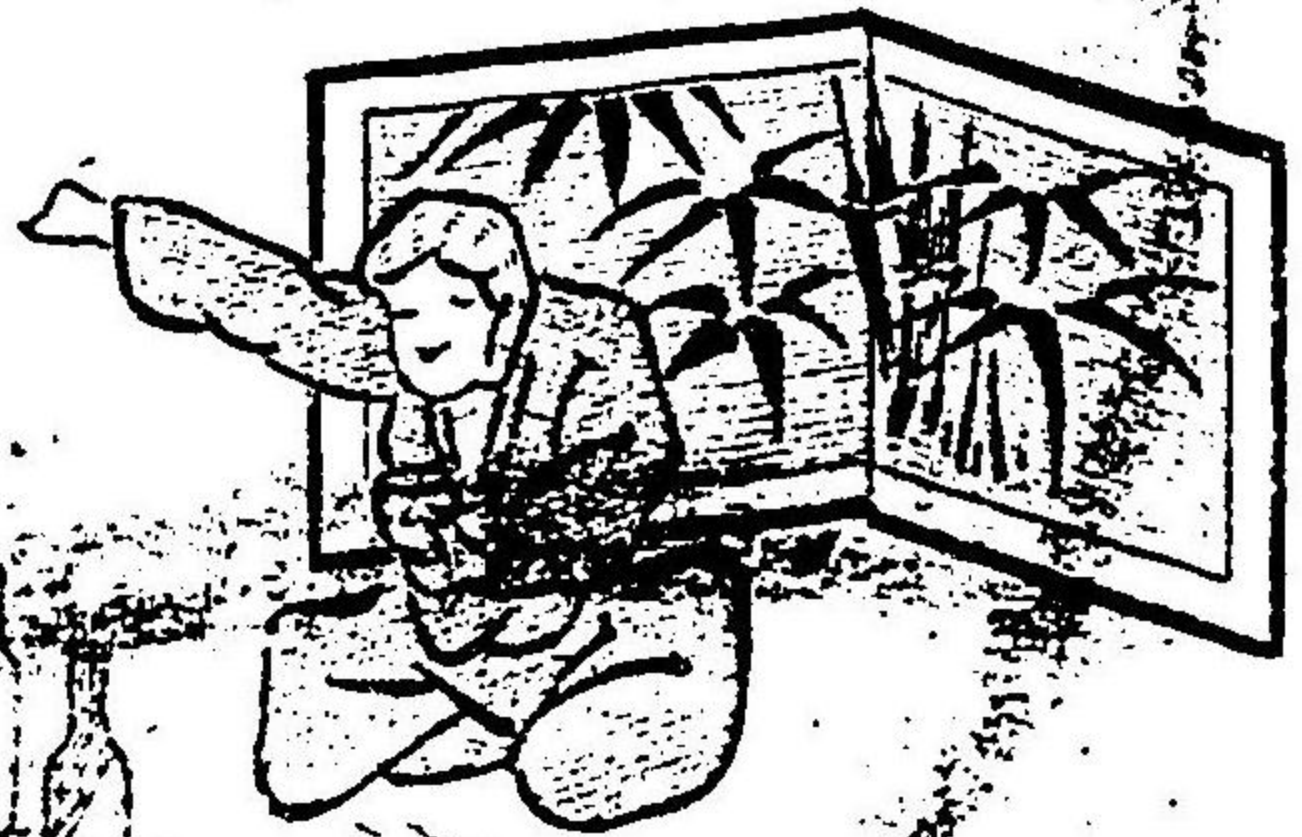
こと論さ

かろくは

たれ

ま

り



かろくは

かろくは



かろくは

かろくは

かろくは

かろくは

かろくは





儀同三司母

とすれも  
日くま

増進の  
屋

り  
の

命  
の



大納言公任

水道の  
所

なる  
めれど

い  
ま

函館の





和泉式部

何れも

かんの

金と

勢

莊

家

いふまでもなく



相模

いふ

まよ

あ

相

ま

あ

あ





前大侍正行尊

もろともよ

まじり

あなご 雇人

うでま

ふのよ

賃本

まじり



周防内侍

異部ま

くよ先き

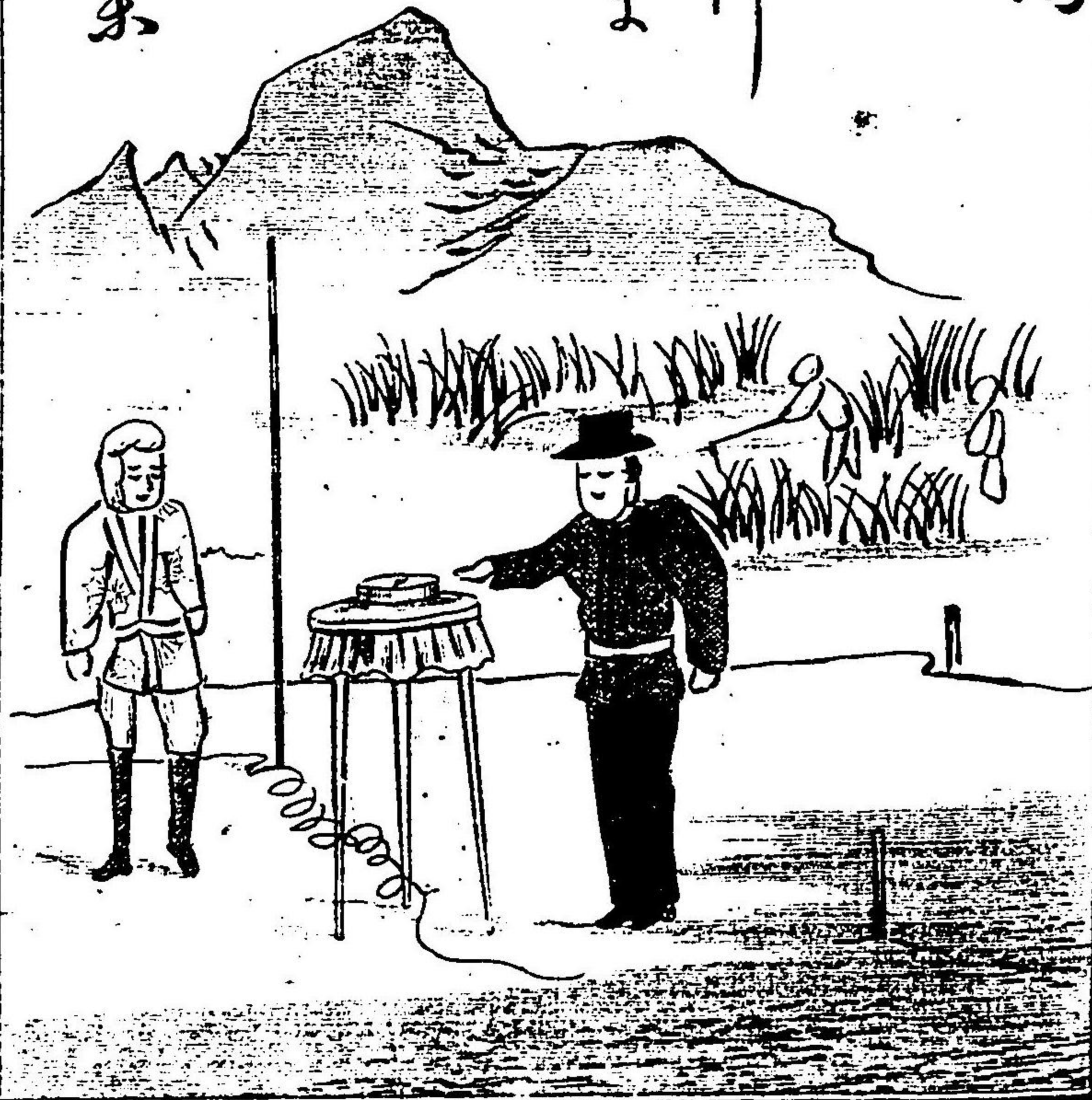
開聖よ

有珠

紋意の

名譽

まじり





三條院

あつ路がけ

あしはる

あく夕屋

まて

つとめて

今ハ

らくの

あつえ

能国法師

あきあがりハ

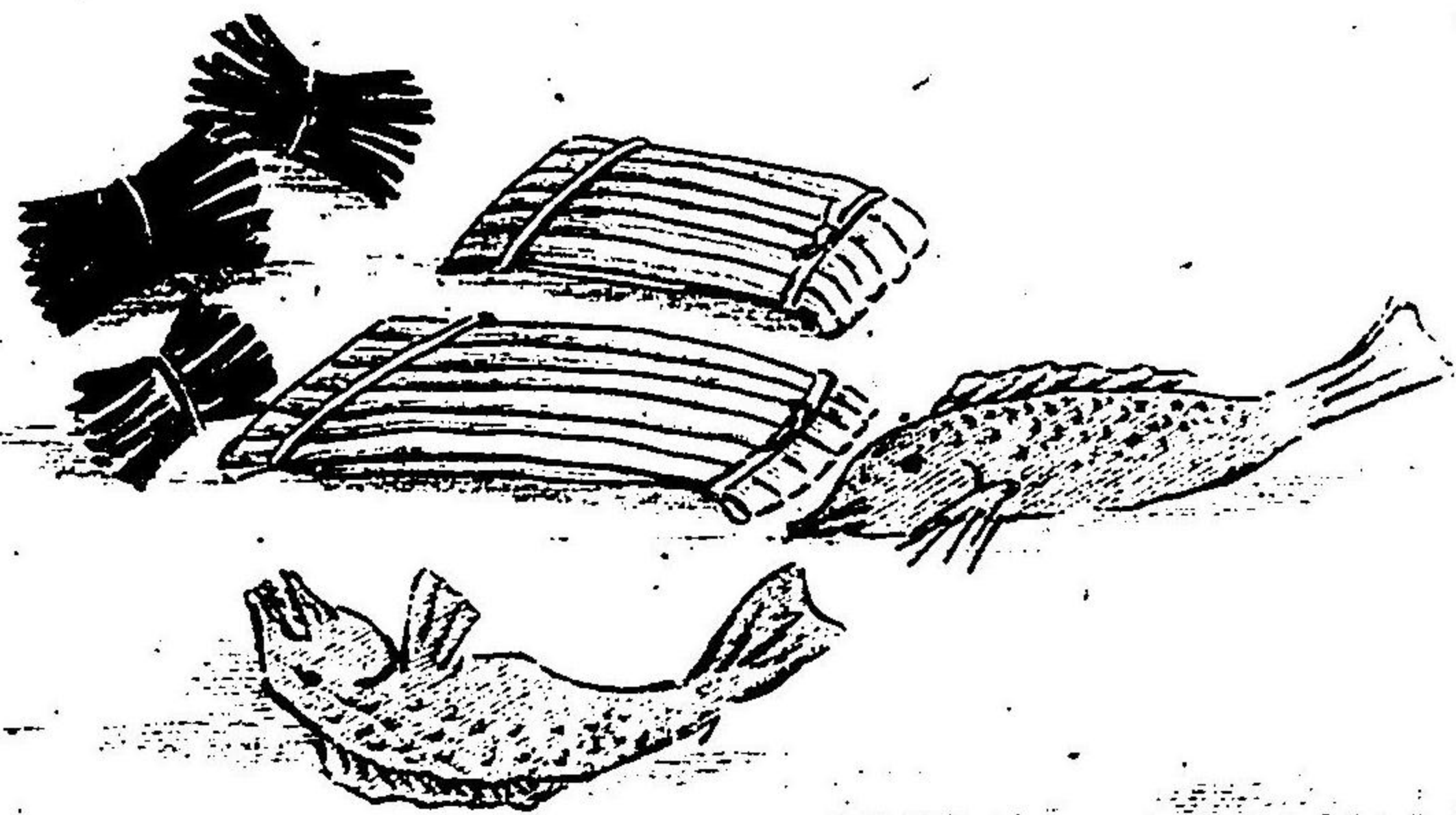
石狩川

根室日比布

源島と

後志

糸





良造法師

くしんか

國がふん

あふれ

いほい

今の

世の中



大綱を信

夕暮

秋

出し

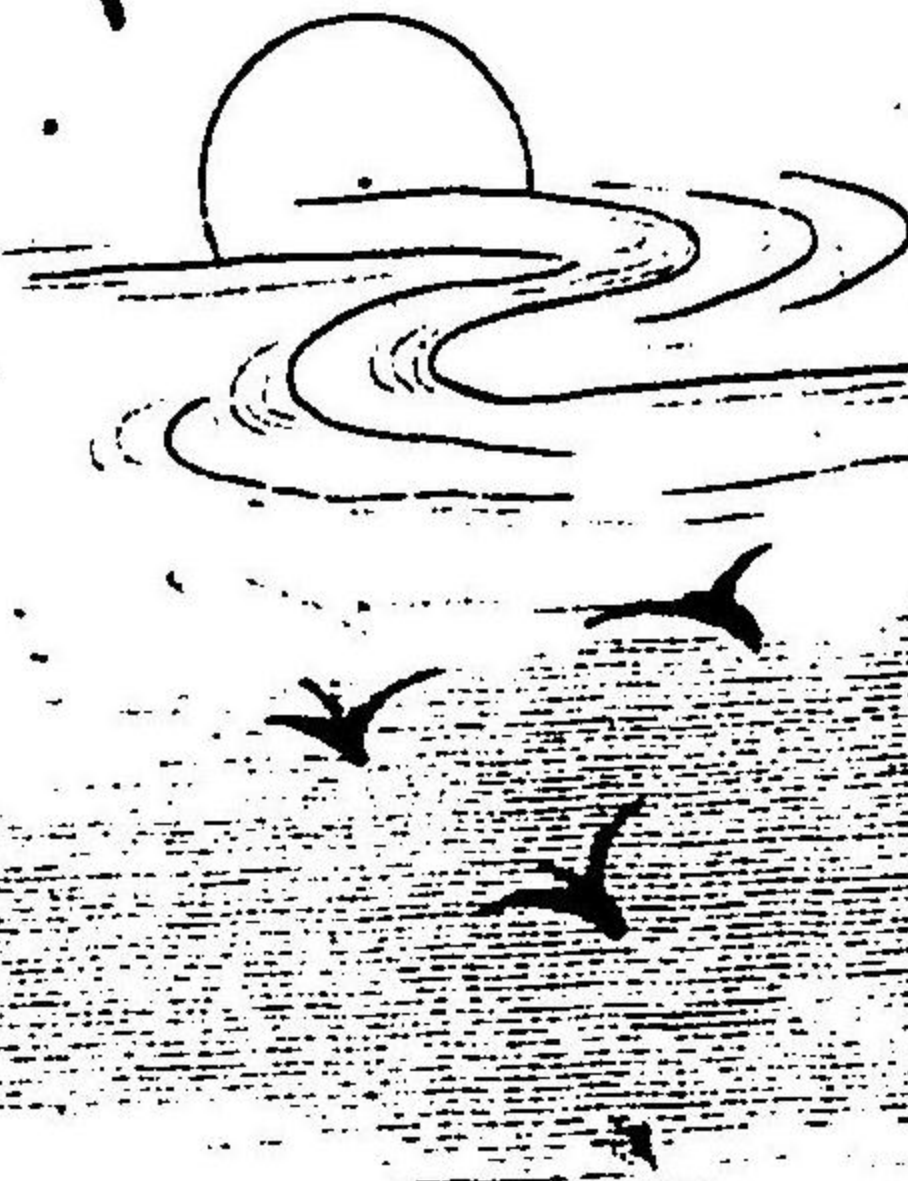
園の

こた

いま

秋風

吹く





祐子内親王家紀伊

音子中三

藤野

栖系

上

下

諸

國

りるの那

熊物





前中納言匠房

高路也

小橋

海岸

うらり

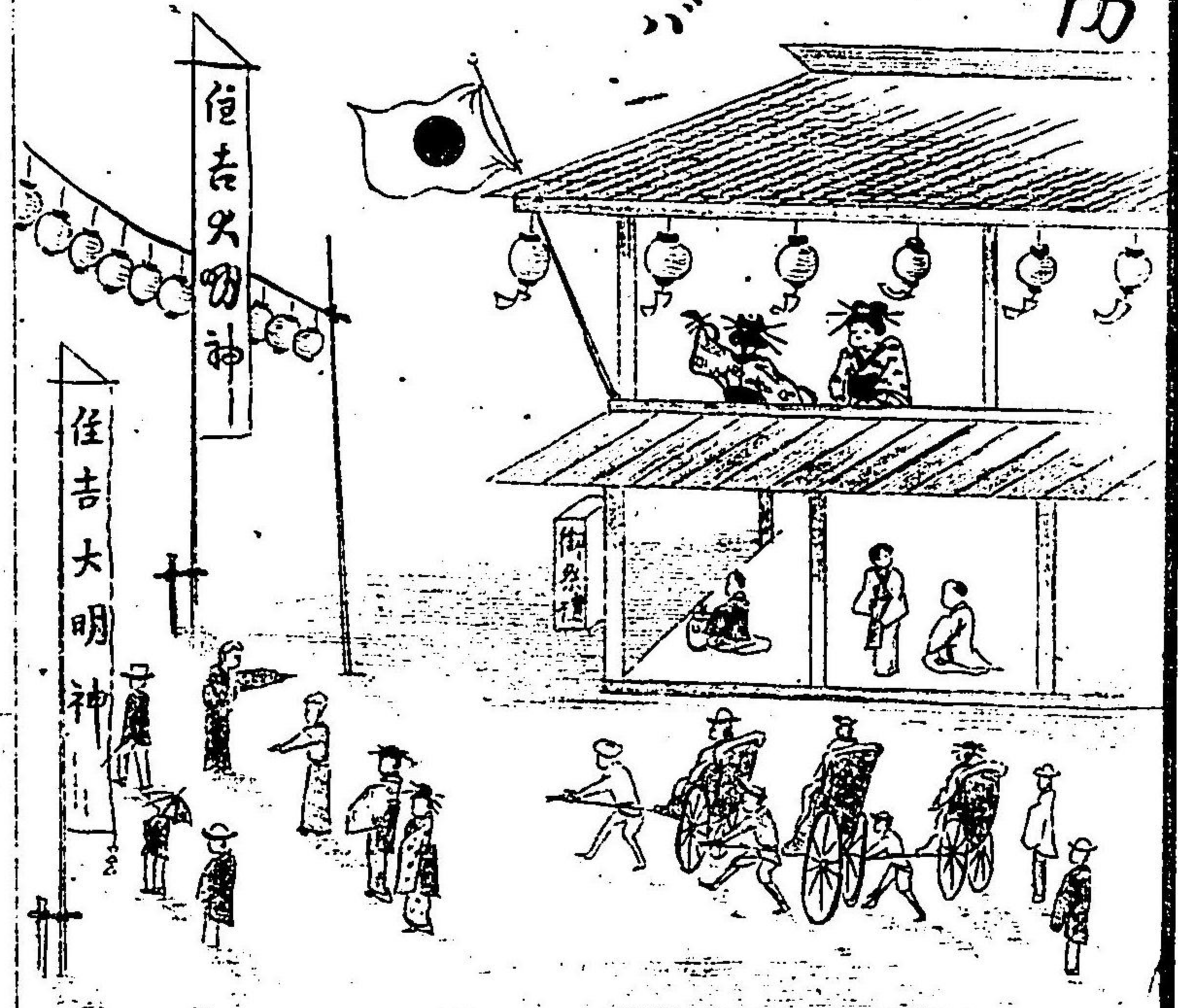
かま

杉

賑山

手宮

恒吉





源俊賴の居

うしろ

人

たのしみ

源

きて

見

ま

つれ

心

とせむ





三藤原基俊

後のまきし

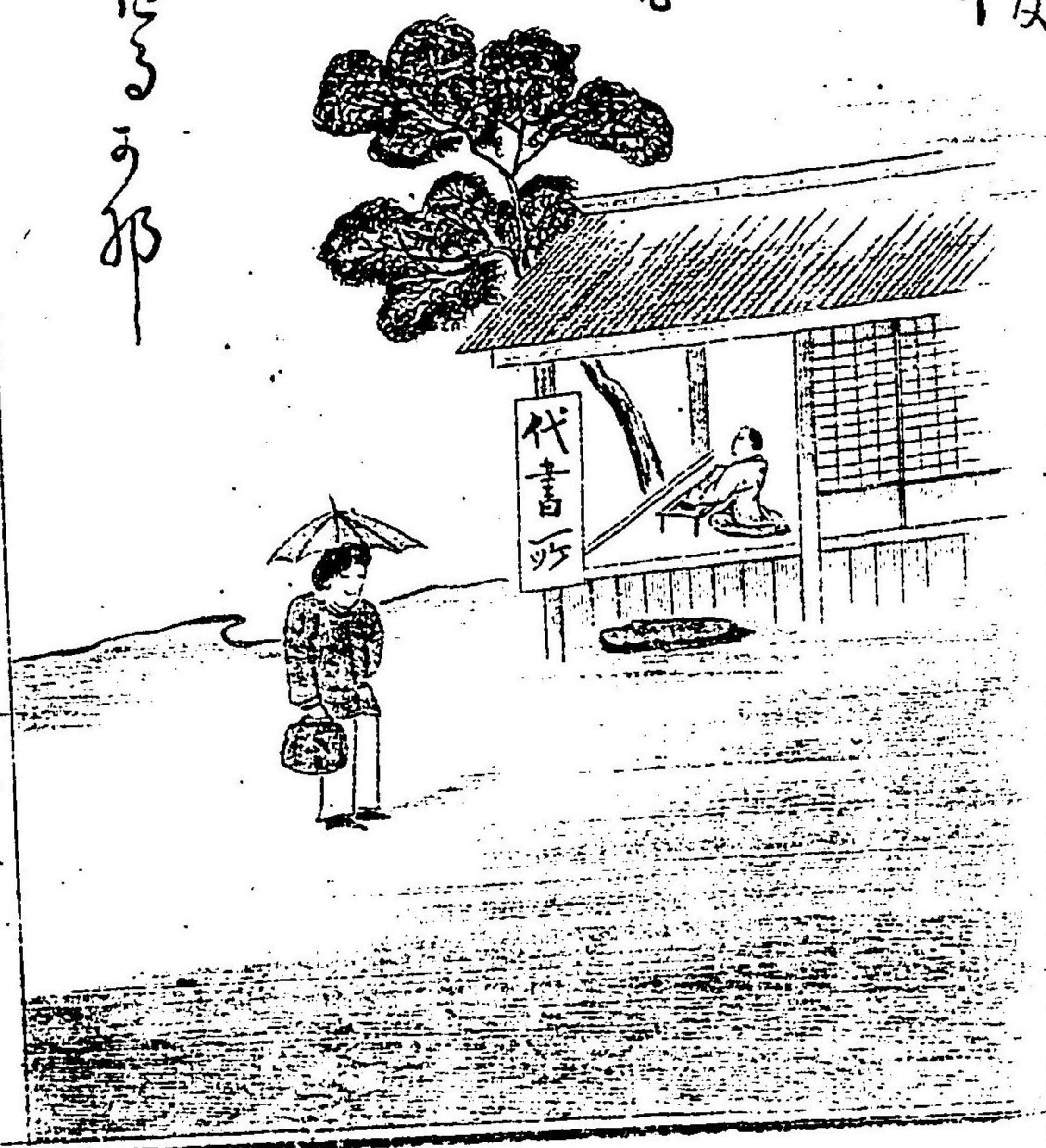
親のまきし

まひすそ

河まね

借家

くらしきや





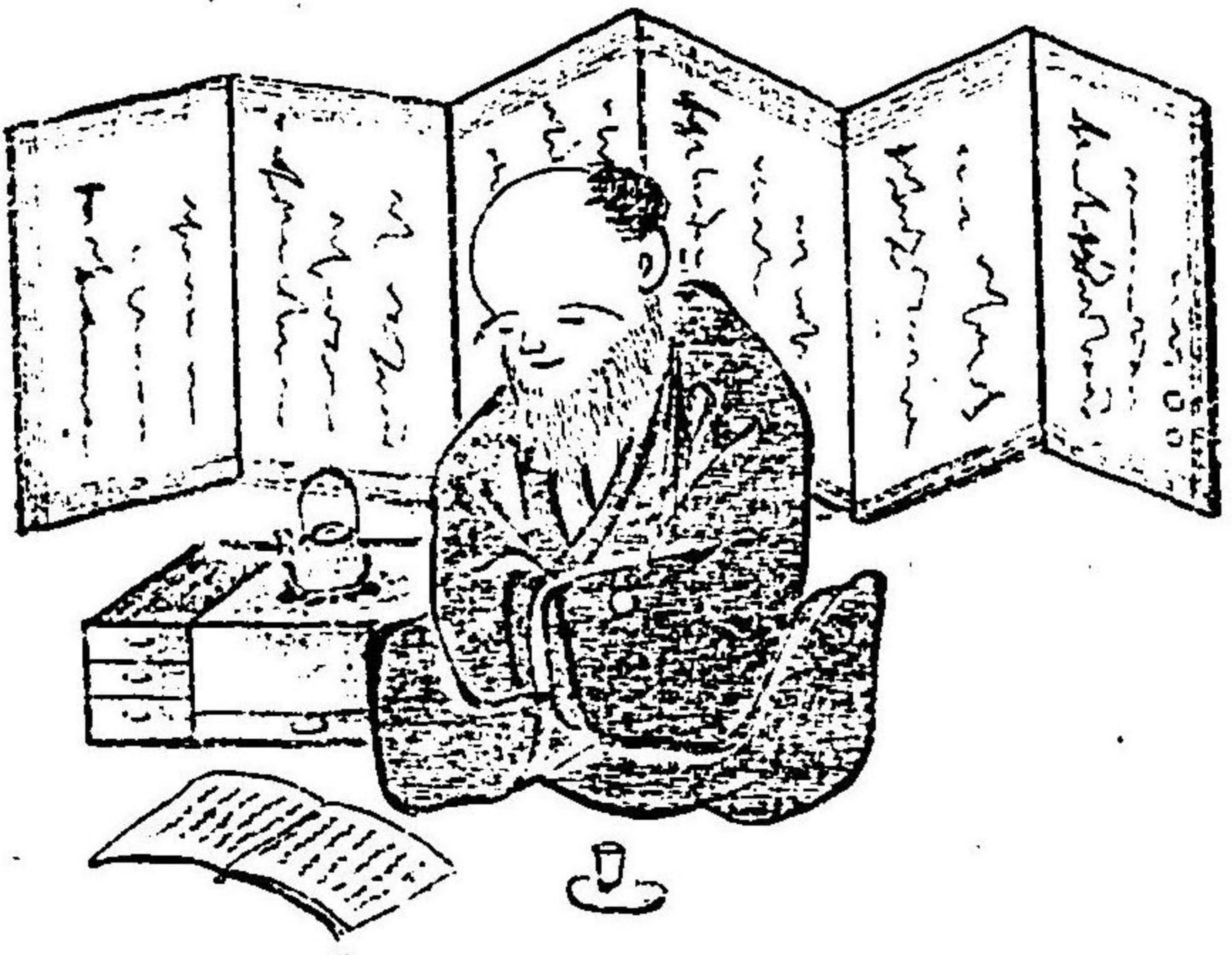
起きり  
ころびり

のびり  
れ

老の板

な  
り

ふ  
きり



法性寺入道前関白太政大臣



宗徳院

瀬ももゆき

川

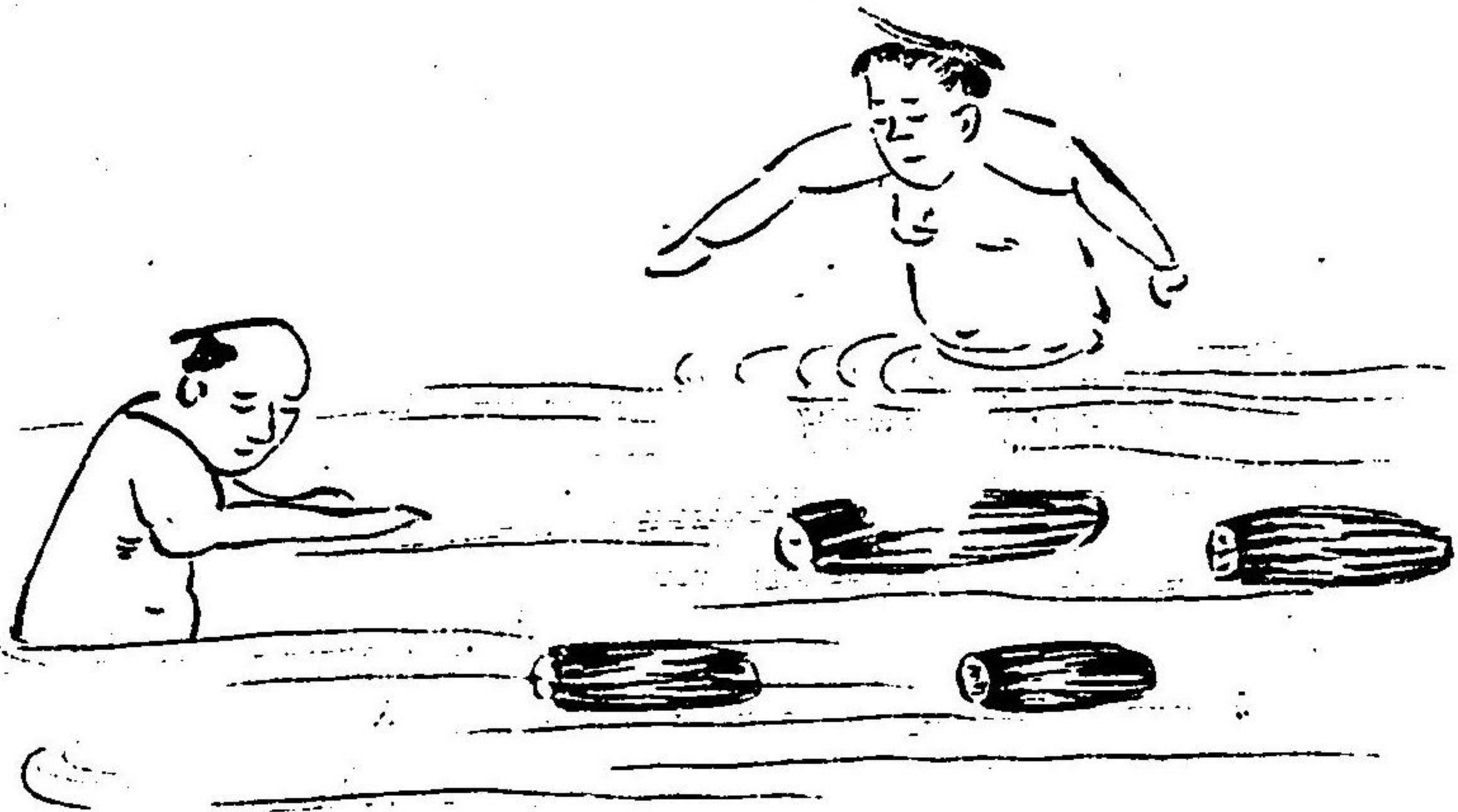
庵の  
木浴

まぜ

すえ

別人

あ





宗徳院

瀬ももゆき

川

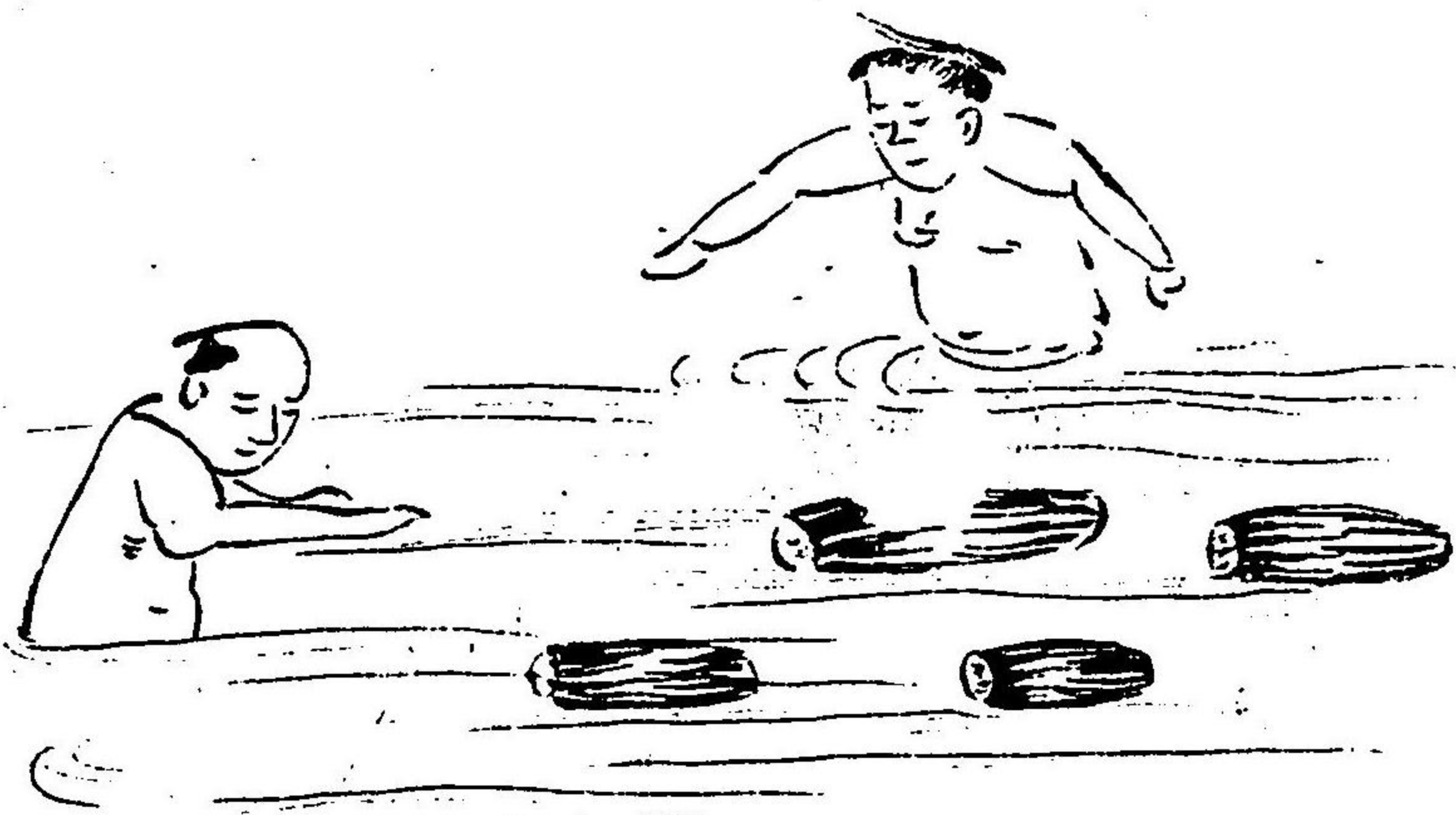
庵の  
木流

まぜ

すえ

別人

し





源兼昌

神文トドマ

志の海

鳴る

夜移

しる

左京去吏

雨あせも

何ゆむ

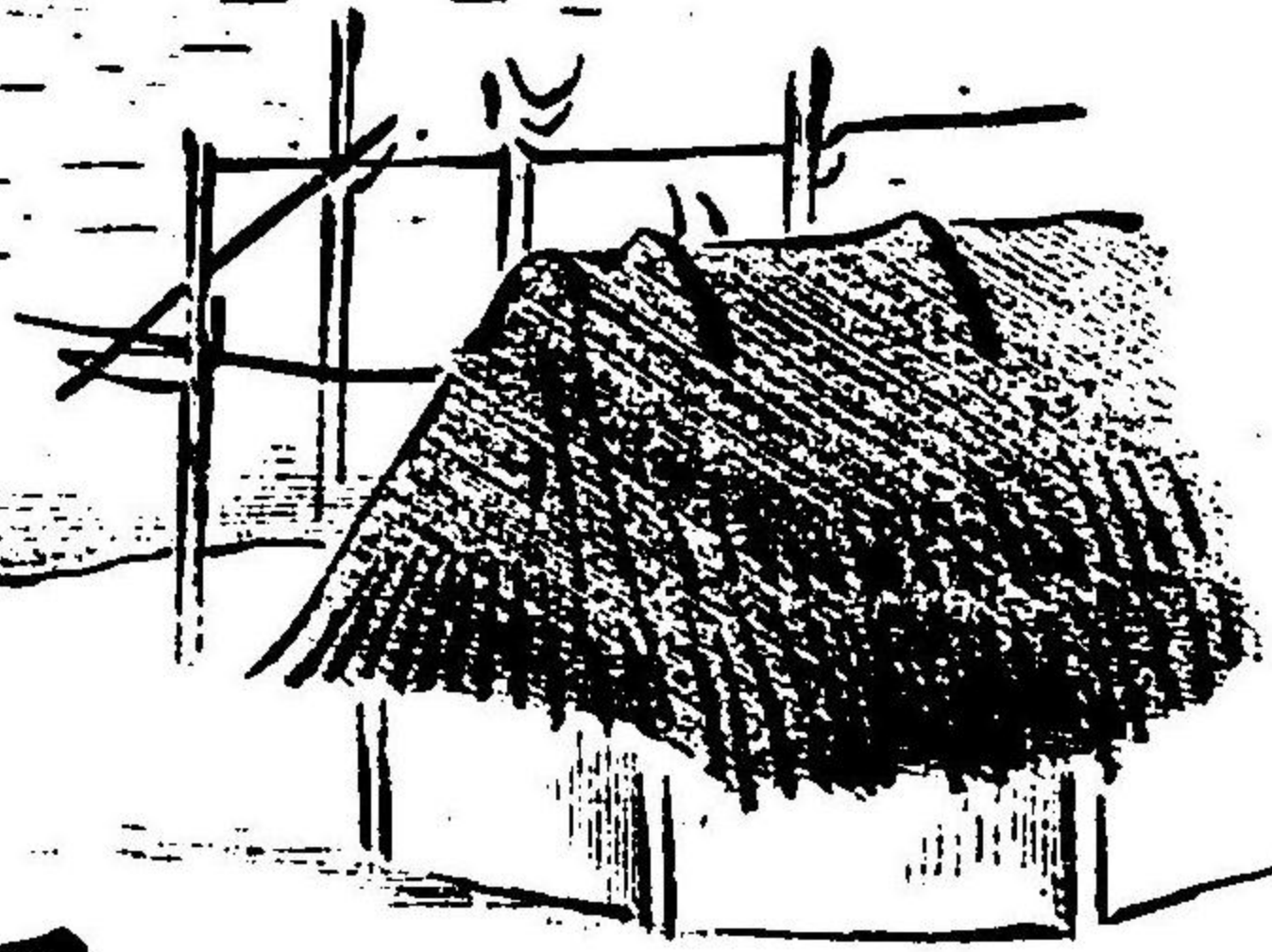
旅人

かき

たん

金

の





侍階門院堀川

涙り来し

心もあらず

かたじけなく

来し

後悔と

する

後徳大寺を去る

石海ゆゑ

さし引

まゆりて

これ

唯秋味此

何ぞ

のちこれ

る





道因法師

朝ひす

孝

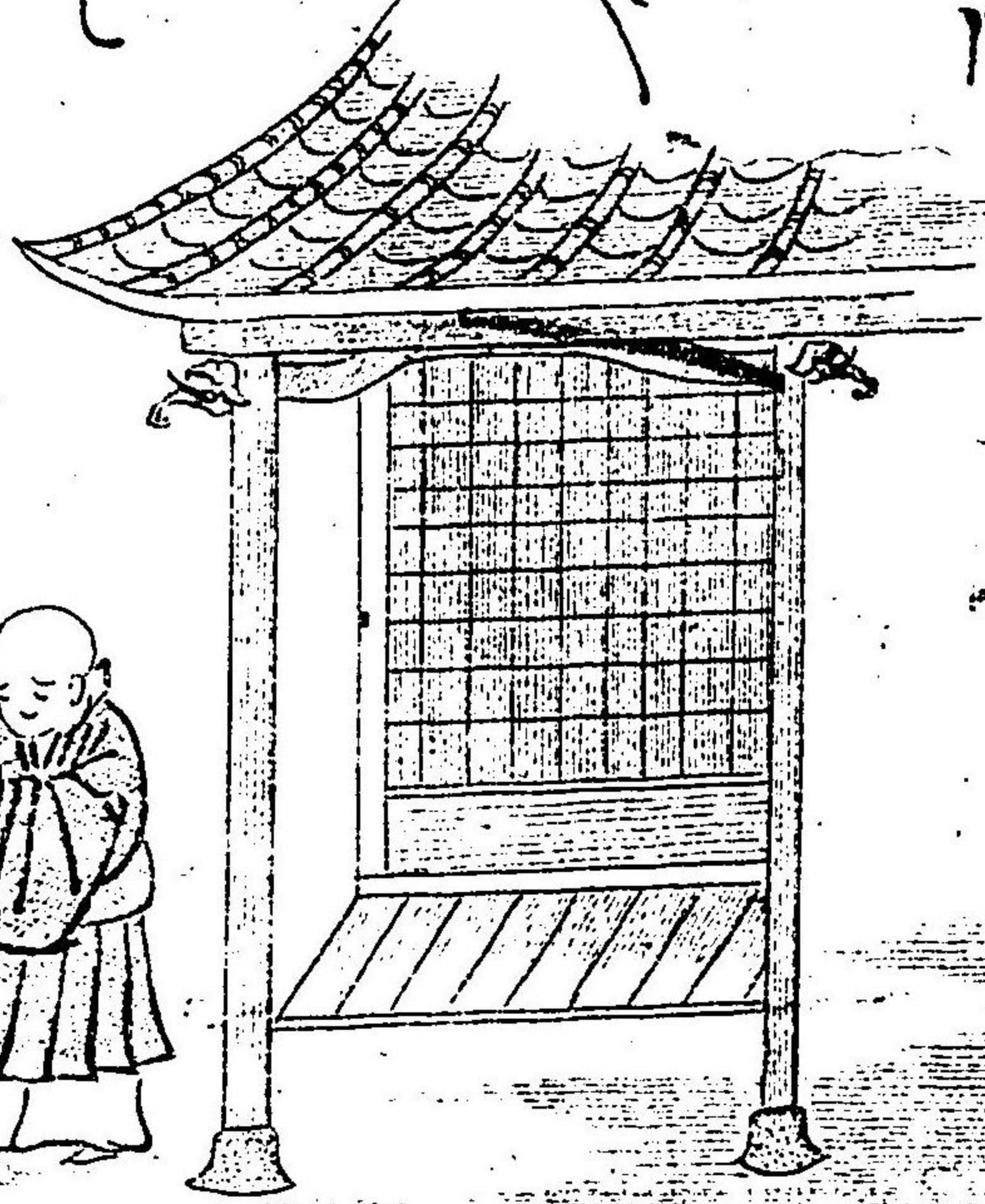
た

寄

す

龍義

す



皇太后宮を史俊成

松隈

梅

懐

市

山

通

の

開





藤原清浦の屋

いづるまて

冬に

か

まの

我が

か

今

か

後惠法師

よ

か

は

な

で

今

か

は

な

を





西行法師

なげ

いまま

すて

甲斐

女房

の



寂蓮法師

揚

老

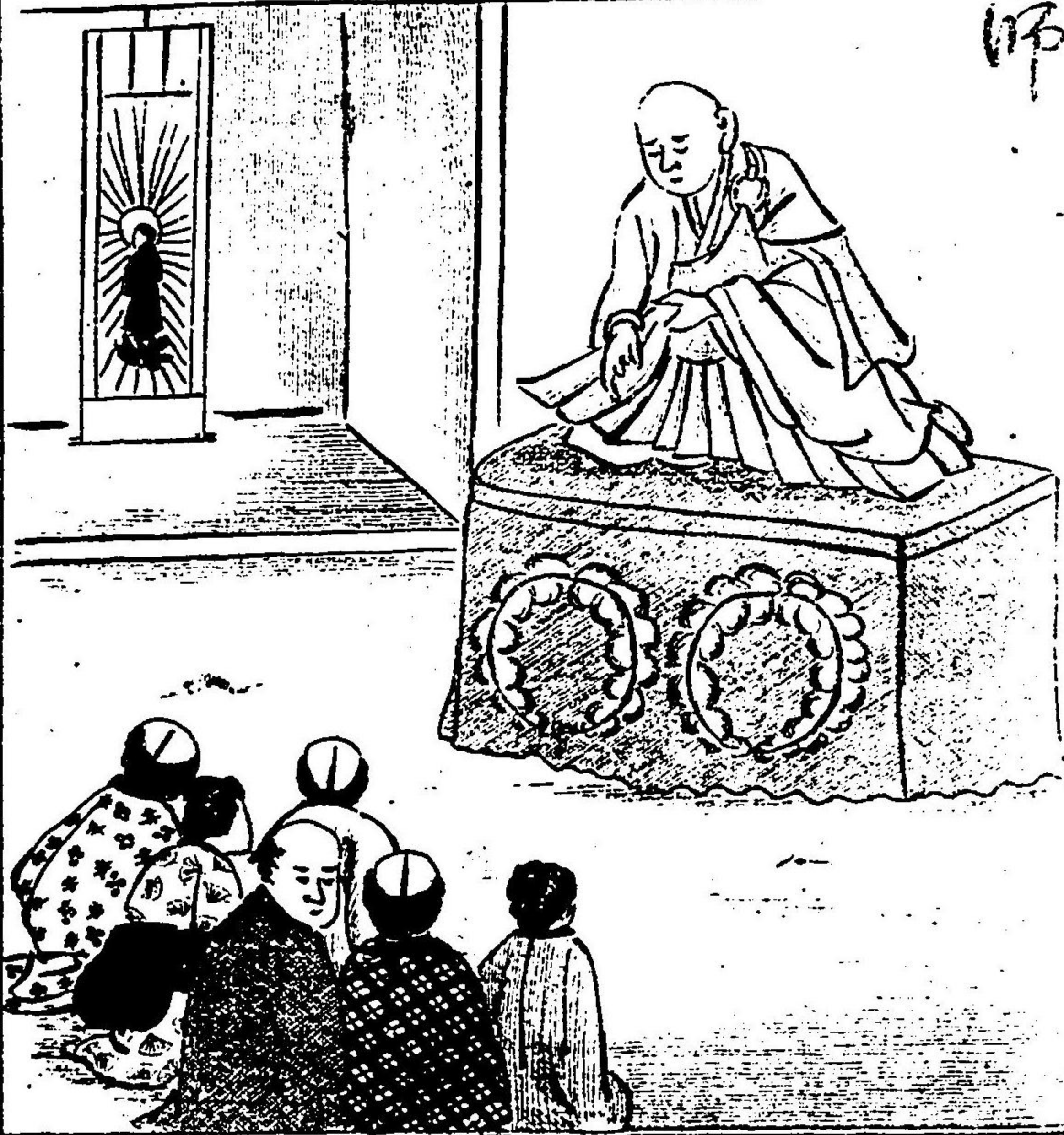
阿保

た

の

寺

有  
福





皇太后院別當

藤前也

たぬき

小波で

可禰

才

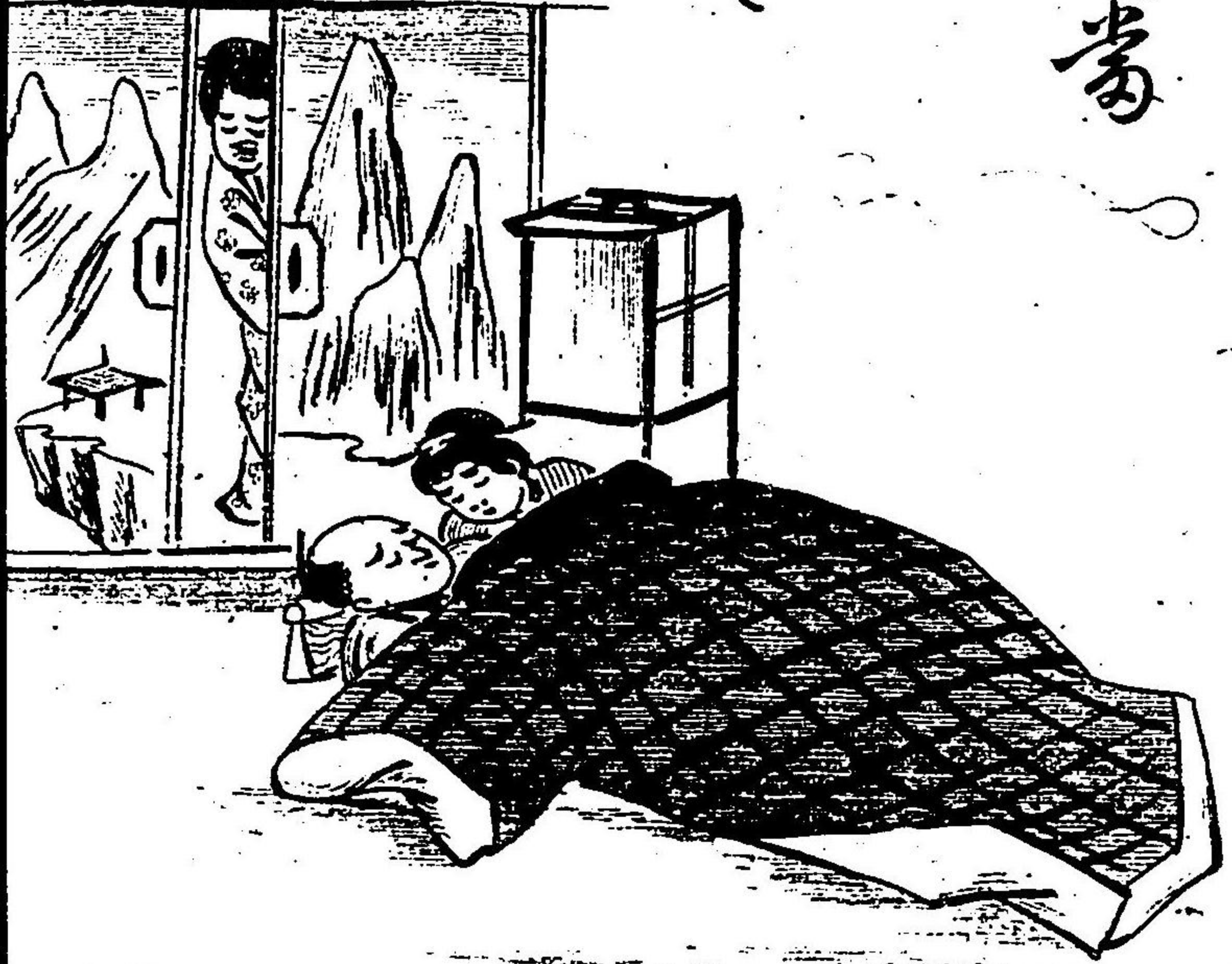
まきり

うらま

喰え

うらま

とん



式子内親王

ふく

陽

あつれ

たの

自然

ま

よ

す





殷富門院左輔

みせをぬな

酒造の

濱北

ぬれまど

ぬれまど

なまり

なまり

後京極攝政  
前大臣大膳

水のそと

禮文

利原

かたの

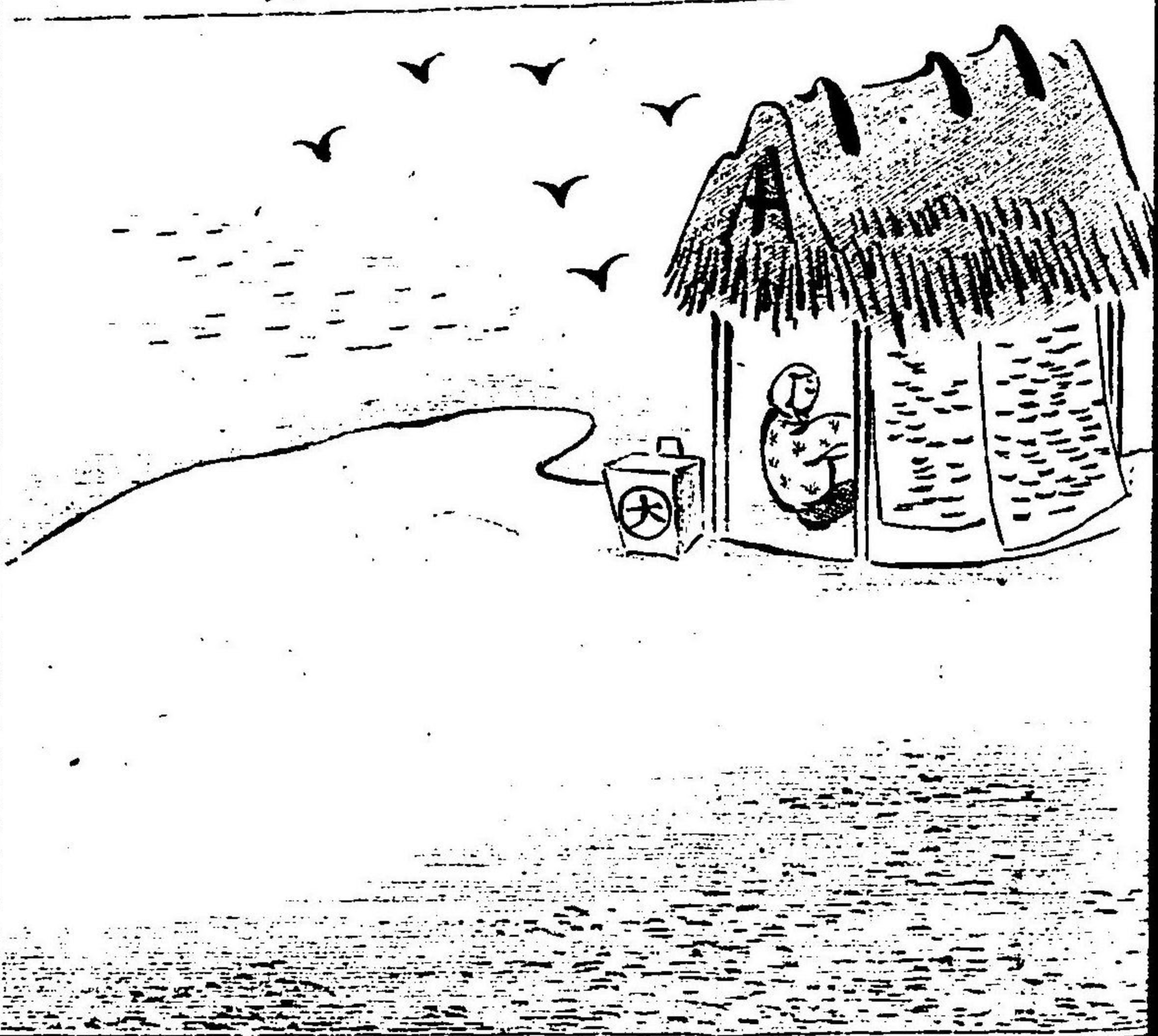
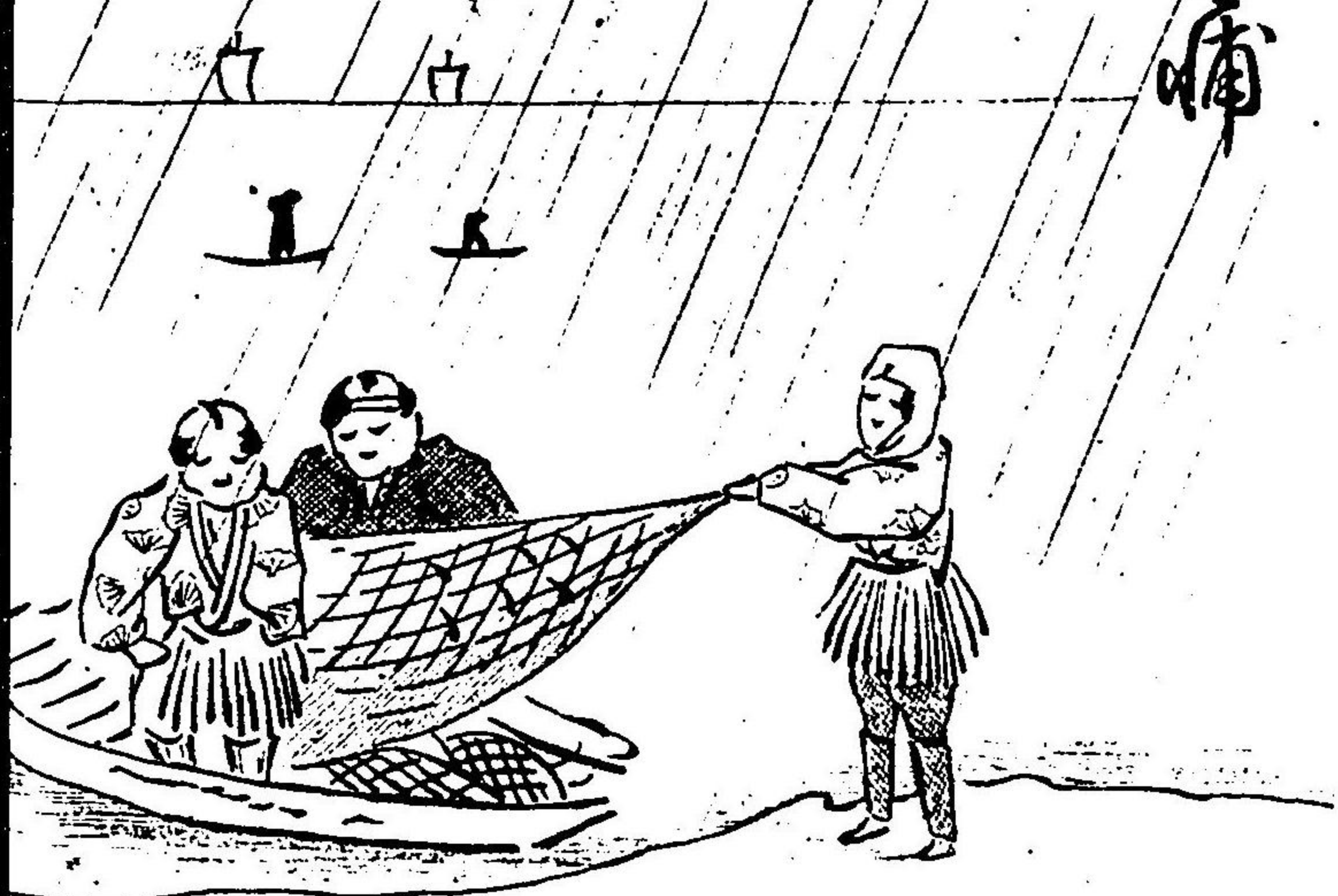
うら

むら

かたの

ひま

福毛





二條院御岐

糸乃切を

志乃の

ぬ

糸

業乃

切

のせき

妻子、志乃の

い

甲斐な

鎌倉右大臣

夜のうらやま

きりぎりす

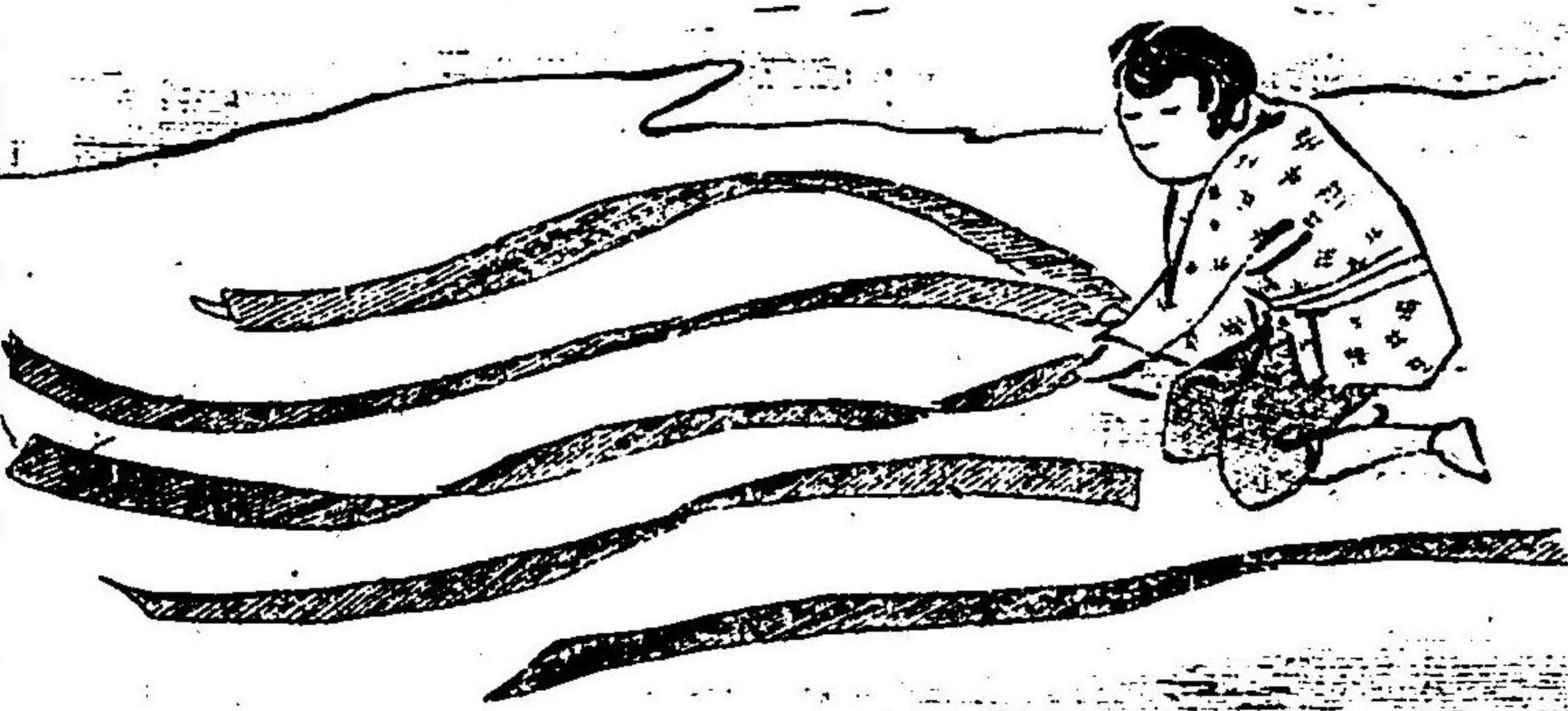
船

だ

ゆ

つ

の





冬 漢 雅 經

宿 野

辺

山 炭

たき

たき

たき

前大踏正意因

お月

内地の人

たき

たき

たき

たき

宿



山 炭

たき

山 炭

たき

たき





入道前をぬき屋

風をたふ

まゆの

かきま

めきれ

うらた

あらぶれ

こづのき

まがさ

かきま

橋中納言定家

こりや

風吹き

まゆの

夕暮り

ひくわ

あまのし

あ

あ





正三位家隆

名のこゝろて

をききき

ひさの

あすのこ

夏の

あつ



後鳥羽院

親加

あつ

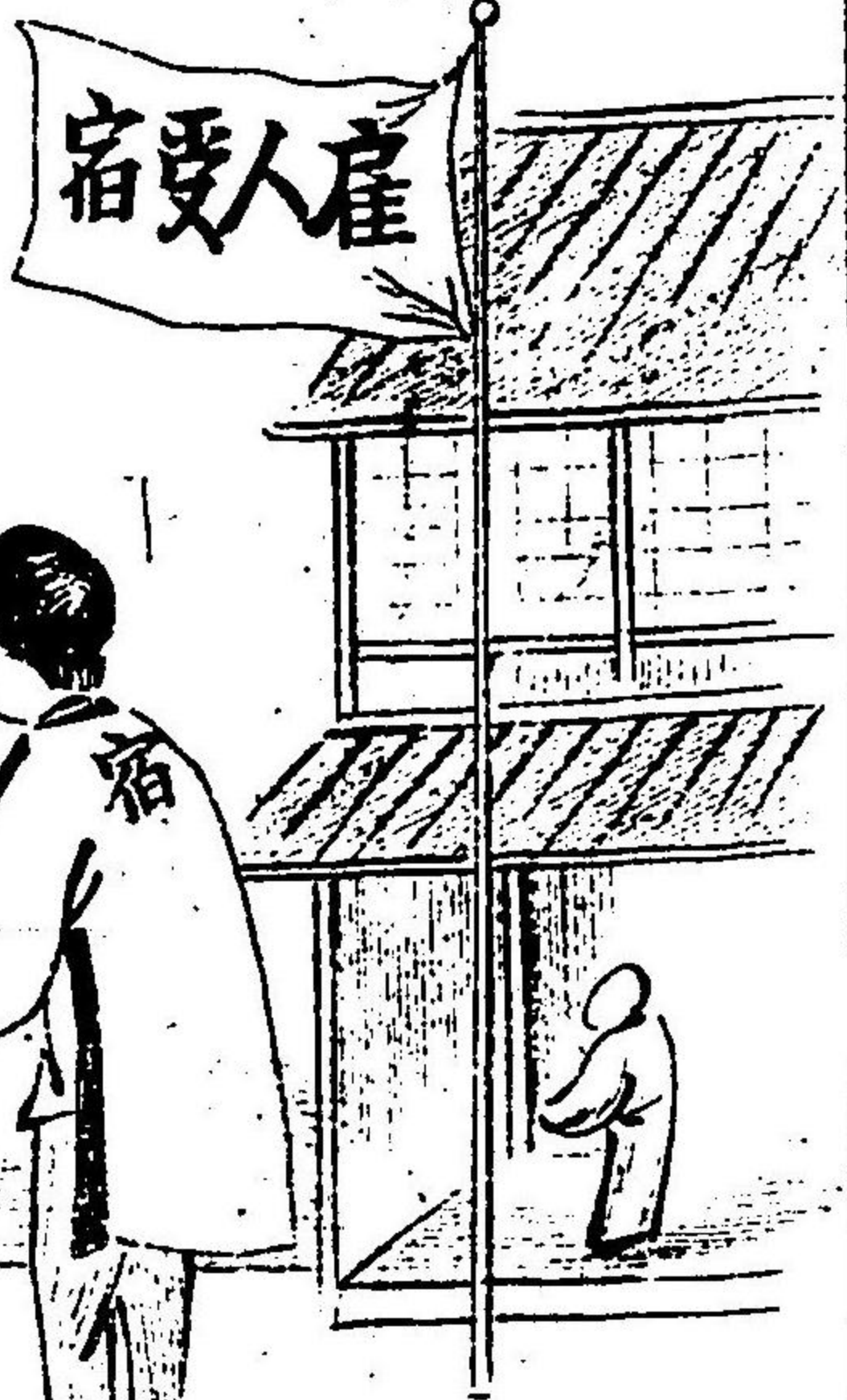
あつ

よと

家

あつ

あつ





158  
118

明治三十一年四月廿日印刷  
五月十日出版

著者兼發行 茨城  
印 刷 東

画工

順徳院

股引也

ゆき

らん

志

れ



から

出

む

は

あ



158  
118

明治三十一年四月廿日印刷  
五月十日出版

著者兼發行  
茨城

印刷  
東

西工

順徳院

股引也

ゆき

うき

志

れ



おの

出

む

は

158  
118



158

118



